



日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

(酪農経営支援要員確保実証事業)

酪農ヘルパー技術・資質向上マニュアル 平成 25 年度



一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会

目 次

I	平成25年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修開催要領	1
II	酪農ヘルパー技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会開催	4
1	養成研修の課題と対応	
(1)	公益財団法人中国四国酪農大学校（報告；岸戸武士副校長）	7
(2)	一般財団法人蔵王酪農センター（報告；平間耕幸総務課長）	8
(3)	ホクレン畜産技術実証センター（報告；清水 勲業務課長）	9
(4)	地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場（新得町） （報告；古川研治、十勝農協連調査役）	10
(5)	地方独立行政法人北海道立総合研究機構根釧農業試験場（中標津町） （報告；千葉耕平、JA北海道中央会根釧支所）	11
(6)	一般財団法人北海道農業協同組合学校（JAカレッジ） （報告；小山田慶次講師）	12
(7)	全国酪農業協同組合連合会（報告；山崎正典酪農生産指導室長） （報告；内藤晃尚指導企画部企画課長）	13
(8)	一般社団法人酪農ヘルパー全国協会（報告；佐藤元二）	14
2	受講前後の調査票	
(1)	受講前模範アンケート（ホクレン畜産技術実証センター）	15
	（公益財団法人中国四国酪農大学校）	16
(2)	受講後模範アンケート（ホクレン畜産技術実証センター）	17
	（公益財団法人中国四国酪農大学校）	18
3	酪農ヘルパー専門技術員養成研修理解度チェック	
(1)	ホクレン畜産技術実証センター（問題）	19
(2)	（模範解答例）	23
(3)	公益財団法人中国四国酪農大学校（問題）	28
(4)	（模範解答例）	30

Ⅲ セミナー（酪農ヘルパー養成研修）カリキュラム及び受講者感想文

1	地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場（新得町）第1回……………	32
2	地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場（新得町）第2回……………	41
3	ホクレン畜産技術実証センター第1回……………	45
4	ホクレン畜産技術実証センター第2回……………	45
5	ホクレン畜産技術実証センター第3回……………	45
6	地方独立行政法人北海道立総合研究機構根釧農業試験場（中標津町）……………	59
7	公益財団法人中国四国酪農大学校 ……………	64
8	一般財団法人北海道農業協同組合学校（JAカレッジ） ……………	69
9	一般財団法人北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）中級者セミナー ……………	74
10	一般財団法人蔵王酪農センター ……………	80

I 平成25年度 酪農ヘルパー専門員技術養成研修開催要領

1. 目的

高度な技術を有し農家に信頼される酪農ヘルパー要員の育成を図ることを目的に社団法人酪農ヘルパー全国協会は、酪農ヘルパー専門技術員養成研修を本開催要領に基づき実施する。

2. 受講要件

受講要件は以下のとおりとする。

- (1) 現在酪農ヘルパー業務に従事する者で都道府県団体および酪農ヘルパー利用組合から受講申請のあった者
- (2) 酪農ヘルパー就業を希望する畜産科課程の学生等で、酪農ヘルパー全国協会会長が特に認めた者

3. 研修の種類

種類 項目	酪農ヘルパー養成研修		
	初任者研修Ⅰ	初任者研修Ⅱ	中級者研修 (北海道開催のみ)
対象者 (受講資格)	原則として就業後1年以内の酪農ヘルパーで、酪農経験の浅い者	原則として就業後1年以内の酪農ヘルパーで酪農経験の深い者	原則として就業後3年以上の酪農ヘルパー
研修内容	酪農の基礎知識・技術およびヘルパーに必要な専門知識と技術	酪農の基礎知識・技術およびヘルパーに必要な専門知識と技術	酪農ヘルパーに必要な専門知識・技術とその応用
研修時間	講義40時間（原則） 実技40時間（原則）	講義30時間（原則） 実習4時間（原則）	講義30時間（原則） (施設見学を含む)
研修期間	2週間（原則）	1週間（原則）	1週間（原則）
修了証書	養成研修終了後	養成研修終了後	養成研修終了後
認定書	養成研修終了後	養成研修終了後	対象外

注1 専門技術員の認定は、全国協会会長が特に認めた学生等も認定することができる。

4. 研修場所

所在地	名称	収容人数（1開催）
北海道	ホクレン畜産技術研究所	10名
	北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）	25名
	北海道立畜産試験場（新得）	25名
	北海道立根釧農業試験場	20名
宮城	財団法人 蔵王酪農センター	10名
岡山	財団法人中国四国酪農大学校	8名

5. 研修の申込みおよび締め切り

(1) 養成研修に参加しようとする者（利用組合等）は、別紙様式第2号の「受講申請書」を県団体に提出する。

県団体は、別紙様式第1号にとりまとめのうえ、原則として研修開始日の1ヶ月前までに全国協会に提出する。

(2) 全国協会は、研修先が定員になり次第締め切り、都道府県団体を経由して、利用組合へ承諾を通知する。

なお、定員を超えたため受講できなかった者は、次回の研修を優先的に受講できるものとする。

(3) また、全国協会は研修の申請状況および研修施設の都合等により、計画を中止または変更する場合がある。

6. 実践研修との関係

(1) 専任ヘルパーであって初任者研修修了者は、酪農ヘルパー研修特別補助金（実践研修補助金 75,000円×12ヶ月以内）の交付対象とすることができる。

(2) 実践研修の交付対象者は、雇用後1年以内に実践研修を開始しなければならない。

(3) ただし、養成研修の開催時期や開催地の関係等で、研修を受講できず、雇用後1年以内に実践研修を開始できないと判断される場合は、あらかじめ全国協会と協議のうえ、別紙様式3号「実践研修事前開始届」を提出し、開始することができる。

7. 25年度酪農ヘルパー養成研修開催計画

施設名	種別	初任者研修Ⅰ	初任者研修Ⅱ	中級者研修
		期間2週間	期間1週間	期間1週間
ホクレン畜産技術研修所		4/8～4/19 5/13～5/24 10/21～11/1		
北海道立畜産試験場 (新得)			4/22～4/26 10/7～10/11	
北海道立根釧農業試験場 (中標津)			5/27～5/31	
JAカレッジ			2/17～2/21	1/27～1/31
(財)蔵王酪農センター		9/2～9/13		
(財)中国四国酪農大学校		11/11～11/22		

注) 開催日程は、状況により変更になることがあります。

Ⅱ 酪農ヘルパー技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会開催

酪農経営支援要員確保実証事業に係る

「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会」

(セミナー研修委員会次第)

日時：平成25年9月4日（水）

2時～5時

場所：東京都港区南青山5-7-10

南青山会館中会議室

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 協 議

- (1) 養成研修事業の計画について
- (2) 養成研修について協議
- (3) その他

4. 閉 会

(1) 養成研修事業の計画について

ア 酪農作業は、搾乳、栄養管理、繁殖管理、衛生・健康管理、施設・機械管理など多岐にわたるとともに、また、これらの作業は牛舎や飼料給与システムの違い、あるいは経営者の考え方によっても様々に変わっており、酪農ヘルパーにはどのようなシステムにも速やかに適応し、作業を適切に実行できる技術力が求められているところ。このため、酪農ヘルパー要員の養成を行うための技術・資質向上マニュアルを作成し、研修内容の策定及び理解度チェック・アンケート等を均一化し普及・啓発を図る。

イ 酪農作業は、搾乳、栄養管理、繁殖管理、衛生・健康管理、施設・機械管理など多岐にわたるとともに、また、これらの作業は牛舎や飼料給与システムの違い、あるいは経営者の考え方によっても様々に変わっており、酪農ヘルパーにはどのようなシステムにも速やかに適応し、作業を適切に実行できる技術力が求められているところであり、ヘルパーの技術・資質に優れていることが、突発事故の発生や休日取得などの場合に、酪農家の飼養管理等の代行を行う酪農ヘルパーは、酪農生産基盤の維持に欠かすことができない。

ウ 実証セミナーを全国的に開催する。

北海道、札幌2回、北見3回、中標津1回、新得2回、宮城県蔵王1回、岡山県真庭市1回を予定。別添開催要領参照

各地1週間～2週間開催。

札幌におけるセミナー1回はスキルアップを図る中堅のヘルパーを対象とする。

(2) 養成研修事業の目的

ア 酪農経営は、毎日の搾乳、飼養管理など早朝から夜間まで作業があるとともに周年拘束性が強い、年間労働時間は長く、かつ休日確保も難しいといった特徴がある。また、主たる従事者が、病気や怪我等により作業から離脱せざるを得ない場合には、経営の存続そのものが困難となり、廃業に至るといった場合もある。

このため、突発事故の発生や休日取得などの場合に、酪農家の飼養管理等の代行を行う酪農ヘルパーは、酪農生産基盤の維持に欠かすことができない。

イ 酪農作業は、搾乳、栄養管理、繁殖管理、衛生・健康管理、施設・機械管理など多岐にわたるとともに、また、これらの作業は牛舎や飼料給与システムの違い、あるいは経営者の考え方によっても様々に変わっており、酪農ヘルパーにはどのようなシステムにも速やかに適応し、作業を適切に実行できる技術力が求められているところ。

ウ 一方で酪農ヘルパー離職者の約6割が勤続5年未満であるが、これはヘルパーとしての技術力不足等に起因する。このため、酪農ヘルパーとして必要な知識の習得、技術力の向上を図り、早期離職を低減することが喫緊の課題である。また、酪農生産基盤の維持のために、ヘルパー経験者の新規就農・経営継承を円滑に進める必要がある。

エ このため、ヘルパー要員の技術・資質向上実証セミナーの実施、新規就農希望者の効率的な就農支援手法を開発し、ゆとりある酪農経営の実現と担い手確保を図り、もって我が国畜産の振興に資する

「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会」

(セミナー研修委員会名簿)

日時：平成25年9月4日

午後2時～5時

場所：東京都港区南青山5-7-10

南青山会館中会議室

事業推進委員会セミナー研修委員

小山田 慶 次	元北海道農業協同組合学校総務部長
清 水 勲	ホクレン畜産技術実証センター業務課長
千 葉 耕 平	北海道農業協同組合中央会根釧支所
平 間 耕 幸	一般財団法人蔵王酪農センター総務課長
岸 戸 武 士	公益財団法人中国四国酪農大学校副校長
山 崎 正 典	全国酪農業協同組合連合会購買部酪農生産指導室長
内 藤 晃 尚	全国酪農業協同組合連合会指導企画部企画課長

事務局 社団法人酪農ヘルパー全国協会

門 谷 廣 茂	専務理事
佐 藤 元 二	事務局長
出 口 修 身	事務局次長
安 田 正 弘	事業第一部長
本 間 正 昭	事業第二部長
竹 島 範 子	研修事務担当

1 養成研修の課題と対応

報告	(1) 公益財団法人 中国四国酪農大学校	副校長	岸 戸 武 士
	(2) 一般財団法人 蔵王酪農センター	総務課長	平 間 耕 幸
	(3) ホクレン畜産技術実証センター	業務課長	清 水 勲
	(4) 十勝農業協同組合連合会	調査役	古 川 研 治
	(5) JA北海道中央会根釧支所	職員	千 葉 耕 平
	(6) 元JAカレッジ総務部長	講師	小山田 慶 次
	(7) 全国酪農業協同組合連合会	生産指導室長	山 崎 正 典
		指導企画課長	内 藤 晃 尚
	(8) 一般社団法人酪農ヘルパー全国協会	事務局長	佐 藤 元 二

(1)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名；公益財団法人 中国四国酪農大学校副校長 岸戸 武士

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	②本校では、学校行事、業務等との兼ね合いから、今年度は11月中旬～下旬にかけて2週間の研修を予定している。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	①本校職員寮1階談話室 ②講習の感想、今後の展望等 ③全国酪農ヘルパー協会職員、本校職員同席
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	①研修棟に宿泊（2名/部屋） 車持ち込み可 近隣に食料品・生活用品店、病院等あり ②3食とも学食、自炊可 ③近隣酪農家で実習しており高評価 ④内容によっては集中力を欠く ⑤仲間づくりには良い環境
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	①H24実績別紙 ②H24実績別紙
その他		

(2)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名；一般財団法人 蔵王酪農センター 平間 耕幸

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	当センターでは、初任者研修（2週間コース）を年1回、実施しているが、これまで、開催時期は不定期であったが、初任者のための研修ということから、10月以前には終了することが望ましい。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	意見交換会は、同行した地元ヘルパーと質疑応答の形で時間を設けている。また、最終日前夜は、地元ヘルパーとの懇親会を開催、忌憚のない意見を出す場にもなっている。
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	ここ数年、積極的な姿勢で臨む受講者が多く、研修態度も以前から比べると良好である。また、同行実習では先輩ヘルパーと酪農家さんの目もあり、良い緊張感の中での研修である。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	できるだけ現場に精通している人材を講師にということで、人選している。講義科目は現状のままで良いと判断しているが、他の施設の研修スタイル等をこの機会に参考にさせていただきたい。
その他		休日の行動範囲の制限について、特に制限は設けていないが、節度ある行動をとるようにと、開講時に注意している。

(3)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名；ホクレン畜産技術実証センター 清水 勲

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	・初級者の講座・実習有の講習では、現行2週間程度は必要と考える。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	特段なし
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	・当センターの研修寮に全員宿泊 ・研修寮食堂にて3食摂る。 ・当センター研修は、初級者を中心に12日間コースで行い、日中の座学と朝晩の農家実習を朝晩6日間実施している。 ・全寮制であり受講生全体のまとまりのある行動を促していると考えられ、全体的には概ね熱心な受講・実習姿勢で臨んでいる。但し、経験（・知識）不足による対応力不足や職業意識の未定着から？積極的な姿勢が欠如していることが見受けられる。 ・朝晩の農家実習時に座学（日中5時間）が加わり、特に後半期は疲れも増し集中力を欠き居眠りも散見される。座学内容の精査・選択し見直しも検討必要と思われる。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	・コミュニケーションの取り方（職業人意識向上）外部講師 ・乳牛生理や飼養・搾乳管理の基本的事項を座学実施。 ・ヘルパー業務も幅広いため内容も多様となり量も多くなる。研修は必要となる知識習得のきっかけであり、研修後の実践とともに自習や自己研鑽により成長していくことを期待したいしつつ実施している。 ・ヘルパー実務者の座学1講座実施している。初級者で勤務期間も短く所属組合の上司や先輩からのOJTも少ない中の研修参加であり、同じ実務者として質疑も活発に行われている。 ・実務者の講座を可能であれば追加して、参加者が「実感できる業務知識や対応術」の紹介・例示の増加などを通じて職業意識の向上に繋げたい。
その他		・道内の各ヘルパー組合の取組との連携 相互の取組を理解深め、より共通認識をもって取り進める。

(4)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名；十勝農協連 古川 研治

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	十勝管内では畜産試験場（新得町）の協力により平成14年から座学中心に1週間の研修を年2回実施している。組合からの新規採用者の受講ニーズや中途採用の実態や座学中心の研修としているため、開催時期・期間は妥当と考えている。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	最終日前日に宿泊施設にて毎回実施している。
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	畜産試験場の宿泊施設・対応は申し分ない。これまでの研修の中には生活態度に問題がある受講生がいたが、受講組合には、業務の一環で研修に参加していることを受講職員に徹底して頂くとともに、状況に応じて研修を取りやめ、帰宅させることを了解頂いている。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	受講者の採用前経験や知識習得レベルにより、研修内容へのニーズは異なるが、本研修は基礎的知識の習得とヘルパーとしてのコミュニケーションの重要性を認識してもらうことに主眼を置いている。
その他		酪農ヘルパー関連支援事業の動向が不透明な情勢下で、次期後継対策を早急に検討して、専任ヘルパー募集・養成対策の推進方針を明確に位置づけることが先決である（専任ヘルパー募集・養成対策の推進方針に沿った形で研修内容・実施方法等の詳細を各地域で再整理する必要があると考える）。

(5)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名；JA北海道中央会根釧支所 千葉 耕平

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	・主な講師陣である根釧農試の繁忙期を避けて開催時期を決定しており受講生にとっても妥当である。 ・地元事務局（本会）の対応としては1週間が限界である。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	①会場のある中標津町内の宿泊施設で初日の夜のみ実施。 ②可能な限り対応講師陣も参加しており、初日の交流として有効。
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	①遠方の受講者は個別に宿泊、近隣の受講者はそれぞれ宿泊または通い対応をしている。 ②研修中の食事は昼食のみ準備。朝・夕は個別対応。 ③・④座学ばかりだと疲労感が見えるため、現地実習を組み込んだり、座学研修時は、受講生に質問を投げかける等、眠くならないよう工夫している。 ③・④全国協会委託事務局より常時注意頂いている為、受講生の態度として気になる所はない。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	①技術的には搾乳管理、草地管理、飼養管理を中心に組んでいる他、酪農情勢、生乳安全対策、繁殖・疾病管理、乳業工場見学など幅広く酪農関連の講義を組み込んでいる。また、各利用組織からも要望が多いコミュニケーションマナーの講義を加えている。 ③繁殖（特に発情発見時の対応等）や機械（作業機械、ミルカー等）等 実務的内容および実際のヘルパーを講師に招く事を求める声がある。
その他		・中標津会場では、地元、根室・釧路のヘルパーを対象に開催。近年、道内他地区、道外からの参加者も増えている。参加受付窓口の整理が必要。 ・会場の根釧農試では、海外渡航歴が問われる等、防疫体制が強化される事となる。

(6)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名：小山田 慶次

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他 ・開催日	・「自己紹介」の様式に準じた内容 ・受講生同士のコミュニケーションを図るため開催最初の日の夜が望ましい。ただし、次の日の受講に支障のないように時間限定で開催
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他 ・服装（受講時）	・合宿研修の場合で初任者の場合は特に年齢も若く昼間の研修より夜のコミュニケーションで盛り上がり修学旅行気分になって研修に力が入らない。研修意義の徹底 ・慣れていない座学から離れての実習は、研修生にとっては変化があり興味津々受講しているようなので問題ないように思える。 ・受講生本人の自覚はもとより、主催者側より“研修の意義”を今以上にしっかり派遣先のトップ説明してもらい承知した者のみ参加させる仕組みも必要ではないか。本当に受講したいもののみ受講させる仕組み *1例＝目的意識をしっかり持っている新規就農希望者と一般受講生の受講態度の差 ・“研修の受講生”であるという自覚をもてる服装を徹底させる。 特に對外施設への見学等の時に見苦しくない服装。ただし、今どきの若者ファッションは判断が難しい。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他 ・適正人数 ・講義時間	・初任者研修生のアンケートには“このような講義は必要ない”との意見も見受ける。必要だからカリキュラムに入って入るとおもうが、無いよりはあった方が良いというものは講義時間を減らすなりカットし基礎的な科目の時間を増やすなりの判断も必要でないか *研修後アンケートに忌憚のない意見を書いてもらう ・過大な受講人数は講義内容を理解させるためにも難しいのではないか。教室等のハード面でも課題が残るのでMaxでも15人程度ではないか。 ・車を使って圃場などに出向く講義の時は、その時間も考慮して講義時間を設定してほしい。 *講義時間の延長 ・“この先生のこの講義内容では時間が多すぎる”という講義も見受けられるので、講義時間を減らすなりの検討も必要ではないか。 *研修後アンケートに忌憚のない意見を書いてもらう
その他	・理解度チェック	・真剣に受講していたような者にとっても理解度テストの一部内容の解説に時間がかかっている場合が見受けられる。講義内容と出題の接点を再確認する必要があるのではないか。

(7)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

委員名：全国酪農業協同組合連合会

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	・冬 期 は、要 防 寒・雪対策 ・人数は早めの確定を	・9月頃（1週間コース）を希望 ・受入れ人数は10人程度まで（搾乳牛32頭）
意見交換会について		・講義室にて実施可能（飲食を伴う場合はホテルにて実施可） ・進行は本会職員にて対応可
受講生について	○生活・食事等 ・宿泊は近隣ホテル。（車で約10分） ・朝夕食はホテル、昼食は研修所にて仕出し弁当。 ・コンビニ、スーパー等は徒歩圏内 ○研修態度 ・実習 ・座学	・ホテル⇄研修所は、ホテルバスにて対応可 ・研修を受ける心構えを十分理解し、自由時間も含め、社会人として良識ある態度で臨まれることを期待
研修カリキュラムについて	○内容・量・追加科目 ・カリキュラムは、全国協会テキストに則った本会カリキュラムにて実施 ・座学講師 ・実習講師	・本会職員＋全国協会1名（マナー研修）にて実施 ・酪技研スタッフにて対応
その他		

(8)「技術・資質向上マニュアル作成普及事業推進委員会（研修委員会）」に係る養成研修の課題と対応

一般社団法人酪農ヘルパー全国協会

項 目	課 題	対 応 策
開催時期及び期間について	①1週間について ②2週間について ③その他	①都府県からの要望が1週間コースの需要があるが、現在、全酪連の施設が閉鎖されているため対応していない。このため、希望者は北海道で研修している。都府県の施設でも検討する。 ②円滑化対策事業が終了し、全国協会独自事業となった場合には2週間コースの減少が避けられない。 ③受講生の人数は最低でも、おおむね5名は必要。このため、期間を設けて募集人数が集まらない場合には、研修の中止、もしくは時期の変更もありうる。
意見交換会について	①場所 ②内容 ③その他	①研修施設内で、飲食を伴わないで行うことが望ましい。 ②別途、飲食を伴う、意見交換会を行う場合には、場所、時間、金額を考慮する。特に未成年者の飲酒は厳禁する。 ③参加者全員が意見を述べる雰囲気誘導する。
受講生について	①生活等について ②研修中の食事等 ③実習態度等 ④座学研修態度等 ⑤その他	①研修中の生活は、礼儀を重んじ規則正しい生活が望ましく、特に1週間コースの場合には朝晩の作業がないため時間を持て余すことがない様に、夕食後の1時間程度をアンケートや作文等に充てることをカリキュラムに挿入する。 ②研修中の食事について、どの研修施設も評判がよい。 ③朝晩の搾乳作業実習等は研修生の資質、技量におうところが多いと報告を受けている。初任者には病気が等のない様に注意を払っている。 ④座学研修について、施設ごとに大きく異なるようで、特に、研修人数が多い施設では研修態度に大きく差があるようである。このことは人数ばかりではなく、研修終了後の生活が、消灯、終身時間の定めがなく、夜間行動が頻繁に行われるために昼間の行動がひんしゅくを買うような事態に陥っているため、消灯、就寝時間の厳守を定める。
研修カリキュラムについて	①内容等 ②量等 ③追加科目の必要 ④その他	①カリキュラム内容は研修施設の関係上、講師の得意分野等が様々で、内容には講師が異なることで全国的な統一は困難ではあるが、カリキュラムに沿った研修内容に統一するよう努力する。 ②現在の2週間コース、座学40時間、実習40時間及び1週間コースの座学30時間、実習4時間で量的には満たされている。 ③過去に、マナー研修が追加されたが、このテーマは研修生にも評判がよい。
その他		①研修施設での病気、けがに対する配慮がなされている。 ②感染等の防止に資する、うがい薬、手指の消毒薬の準備。出入口の踏み込み槽は ③搾乳実習時の搾乳手袋の準備

2 受講前後の調査票

(1) 受講前調査票

平成25年度 酪農ヘルパー専門技術員養成研修会参加者チェック表（受講前）

受講場所 ホクレン畜産技術実証センター

実施月日 平成 年 月 日

氏 名 _____

1. あなたの出身は (① 農家 ② 非農家 ③酪農家)
③酪農家に○をつけた方は、酪農を継ぎますか (1. はい 2. いいえ)
2. あなたは「酪農」または「畜産」に関する勉強の経験がありますか。
(1. はい 2. いいえ)
3. あなたは「搾乳の経験」はありますか。 (1. はい 2. いいえ)
「はい」と回答した方に聞きます。
いつ頃 ()
場所はどこですか ()
期間はどのくらいですか ()
4. あなたがこの研修で特に勉強したい項目は何ですか。
5. あなたが酪農ヘルパーを職業として選んだ理由を簡単に書いてください。
6. あなたが酪農ヘルパーをやっていく事で不安な事がありますか。
7. あなたは酪農ヘルパーを、あと何年くらい続けたいと思っていますか。
(①1～2年 ②3～4年 ③5～9年 ④10年以上 ⑤未定)
意見があれば
8. あなたは新規に酪農へ就農したいと考えていますか。 (1. はい 2. いいえ)
「はい」と回答した方に聞きます。
いつ頃 (①今直ぐにでも ②2～3年後 ③5年～ ④時期未定)
場所は (①北海道 ②府県 ③わからない)

酪農ヘルパー専門技術員養成研修参加チェック表（受講前）

受講場所：岡山（公財）中国四国酪農大学校

開催月日平成 年 月 日～ 月 日

氏 名 _____

1. あなたの出身は、（ ① 農家 ② 非農家 ③ 酪農家 ）
③酪農家に○を付けた方は、酪農を継ぎますか。 （ 1. はい 2. いいえ ）
2. あなたは「酪農」または「畜産」に関する勉強の経験がありますか。
（ ①はい ②いいえ ）
3. あなたは「搾乳の経験」がありますか （ 1. はい 2. いいえ ）
「はい」と回答した人に質問します
いつ頃ですか （ ）
場所はどこですか （ ）
期間はどのくらいですか （ ）
4. あなたが研修で特に学びたい項目は何ですか。
5. あなたが酪農ヘルパーを職業として選んだ理由を簡単に書いて下さい。
6. あなたが酪農ヘルパーをやっていくことで不安は何ですか
7. あなたは酪農ヘルパーを後何年くらい続けるつもりですか
（ ①1～2年 ②3～4年 ③5～9年 ④10年以上 ⑤未定 ）
8. あなたは、新規に酪農へ就農したいと考えていますか （ 1. はい 2. いいえ ）
1. はい と回答した方に伺います。
いつ頃 （ ①2～3年後 ②5年～ ③時期未定 ）
場所は （ ①北海道 ②府県 ③どこでもよい ）
9. なにか意見があれば記入下さい。

(2) 受講後調査票

平成25年度 酪農ヘルパー専門技術員養成研修アンケート調査表（受講後）

受講場所 ホクレン畜産技術実証センター

具体的に記入のこと

実施月日 平成25年 月 日

氏 名 _____

1. この研修は有意義でしたか（ 1. はい 2. いいえ ）どの様な点が！
2. 研修期間はいかがでしたか（ 1. 長い 2. 短い 3. 丁度よい ）
3. 研修内容について
 - (1) 講義内容は理解できましたか（ 1. はい 2. いいえ ）どの様な点が！
 - (2) 研究所での実習は良かったですか（ 1. はい 2. いいえ ）どの様な点が！
 - (3) 酪農家での実習は良かったですか（ 1. はい 2. いいえ ）どの様な点が！
4. この研修で専任ヘルパーとして自信ができましたか（ 1. はい 2. いいえ ）
5. 貴方が、これから酪農ヘルパーとして働くとき、何を信念としますか
6. 年1回フォローアップ研修（中堅技術）が、養成研修終了後、ヘルパー経験2年以上の者を対象に研修会が開催されますが、貴方はこの研修会に参加希望しますか
（ 1. 希望する 2. 希望なし 3. 未定 ）
7. 貴方が養成研修を終了するにあたって、研修内容で改善すべき点がありますか
8. この研修会は、酪農ヘルパー全国協会が開催しました。
全国協会に要望がありますか、お聞かせ下さい

平成24年度 専門技術員養成研修研修アンケート調査票（受講後）

受講場所 岡山（公財）中国四国酪農大学校

開催月日 平成 年 月 日～ 月 日

氏 名 _____

1. この研修は有意義でしたか (1. はい 2. いいえ)
(どのような点か具体的に)

2. 研修施設はいかがでしたか (1. 良い 2. 悪い)
(どのような点か具体的に)

3. 研修施設の食事や生活環境はどうでしたか (1. 良い 2. 悪い)
(どのような点か具体的に)

4. 研修内容について

(1) 講義内容は理解できましたか (1. はい 2. いいえ)

(2) 講義内容でよかったものを3つ挙げて下さい。

1

2

3

(3) 酪農家での実習は良かったですか (1. はい 2. いいえ)

(どのような点か具体的に)

5. 研修内容等で改善すべき点がありますか

6. この研修会は、酪農ヘルパー全国協会が開催しました。

全国協会への要望を聞かせ下さい。

3 酪農ヘルパー専門技術員養成研修理解度チェック

1 ホクレン畜産実証センター問題例

酪農ヘルパー専門技術員養成研修理解度チェック

(平成25年度第2回)

ホクレン畜産技術実証センター

実施月日 平成25年5月24日

氏 名 _____

この理解度チェックは、研修生の皆様がこの12日間にどの程度理解されたかを把握するために実施します。

1. 酪農家との対応で正しいものに○、間違っているものに×をつけてください。

- () 酪農の技術は常に変化する事がないので、基本をしっかりやれば良い。
- () 酪農作業は農家によって差があり、酪農家と必ず作業のポイントを良く確認する。
- () 酪農ヘルパーは酪農家の代行業務であり、酪農家との信頼関係など必要ない。
- () 酪農家の搾乳技術に疑問を持ったので畜主と議論し、自分の考えを押し付けたい。

2. 次の問いに答えてください。

(1) 生乳の主な成分は

(2) 抗菌性物質とは

(3) 乳等省令で抗生物質の混入した生乳は、なぜ出荷を規制されていますか

(4) 抗生物質混入事故を防止のために、牛の管理者が留意すべきことは

(5) バルククーラーの洗浄性の確認方法は、

(6) 洗剤の種類と洗浄目的と基本的な使用濃度

下記より選び記入しなさい。(複数回利用可)

- ・() 性洗剤は、()、()、() を除去するために() 洗浄に用いる。希釈濃度は、() %で使用する。
- ・() 性洗剤は() を除去するために、() に1回洗浄に用いる。希釈濃度は、() %で使用する。
- ・洗剤は、() ℃以上の温水に希釈して利用する。一般に() のほうが洗浄力は高い。

・殺菌剤の希釈利用は、常温から（ ）℃以下で必ず行う。（ ）では殺菌能力が持続しない

(アルカリ・無機質・タンパク質・酸・炭水化物・高温・低温・脂肪・毎日・3～4日
43・80・0.5・0.5～1.0)

(7) ミルカーの日常管理すべきチェック箇所は

(8) 搾乳作業の手順について

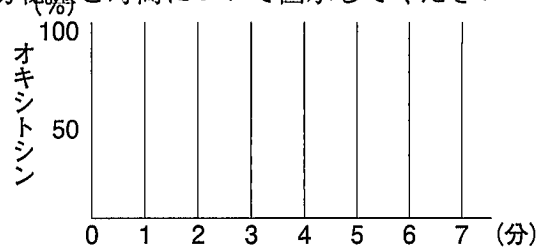
○ポストデッピン

○プレデッピン

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.

(9) オキシトシンの分泌量と時間について図示してください



(10) 搾乳牛では、興奮するとアドレナリンを分泌し、乳を出すのを止めたり排糞する等の現象が見られます。そのストレスを3分類に分け具体的に例示してください。

・不快なこと …

・痛いこと …

・恐怖心 …

(11) 前搾りの効果は (3つ)

- 1.
- 2.

(12) デイッピングの目的は

(13) 過搾乳の影響とその理由は

(14) 牛の胃は第一胃から第四胃までありますが、第一胃と第四胃の機能（働き）について記述してください。

(第一胃)

(第四胃)

(15) 搾乳牛は、体重や産乳量・採食内容によるが、1頭当たり乾物摂取量は、およそ（ ）kg、飲水量は、（ ）ℓ、糞尿は（ ）Kg排出するといわれている。

(16) 乳牛飼料計算の目的は

(17) DMIとは

(18) 貴方がヘルパー作業中、次のような牛がいました。その徴候と対応について記述してください。

○発情の徴候

対 応

○分娩の徴候

対 応

○乳房炎の徴候

対 応

(19) 乾乳牛の定義と目的

定 義

目 的

(20) 分娩時に乳熱が発生することがありますが、酪農家でできる代表的な手当を記述してください。

(21) 初乳の特徴と給与する目的は

・特徴

・目的

(22) 畜排せつ物法とは

(23) 堆肥化を促進する条件を6つ挙げよ

(24) サイレージとは

2 解答例

酪農ヘルパー専門技術員養成研修理解度チェック

(平成25年度第2回)

ホクレン畜産技術実証センター

実施月日 平成25年5月24日

氏 名 _____

この理解度チェックは、研修生の皆様がこの12日間にどの程度理解されたかを把握するために実施します。

1 酪農家との対応で正しいものに○、間違っているものに×をつけてください。

- () 酪農の技術は常に変化する事がないので、基本をしっかりやっていたら良い。
- (○) 酪農作業は農家によって差があり、酪農家と必ず作業のポイントを良く確認する。
- () 酪農ヘルパーは酪農家の代行業務であり、酪農家との信頼関係など必要ない。
- () 酪農家の搾乳技術に疑問を持ったので畜主と議論し、自分の考えを押し付けたい。

2 次の問いに答えてください。

(1) 生乳の主な成分は

乳脂肪・乳糖・乳たんぱく質・ミネラル・ビタミン

(2) 抗菌性物質とは

抗菌性物質には、「自然由来のもの」と搾乳牛の乳房炎等治療等に用いられる「抗生物質」がある。自然由来のものは初乳に多く含まれる免疫物質（免疫グロブリン、ラクトフェリン、リゾチーム等）があり、抗生物質としては、ペニシリン・セファゾン・ストレプトマイシンなどがある。乳等省令で分娩後5日間の生乳、抗菌性物質を含有する生乳は出荷を規制されている。

(3) 乳等省令で抗生物質の混入した生乳は、なぜ出荷を規制されていますか

人体に悪影響を及ぼす。

乳製品の製造に悪影響を与える。

(4) 抗生物質混入事故を防止のために、牛の管理者が留意すべきことは

治療牛の識別、搾乳者間での連絡の徹底

(5) バルククーラーの洗浄性の確認方法は、

水をかけて、水滴の状況で確認する。

(6) 洗剤の種類と洗浄目的と基本的な使用濃度

下記より選び記入しなさい。(複数回利用可)

- ・(アルカリ) 性洗剤は、(タンパク質 、 脂肪 、 炭水化物) を除去するために
- (毎日) 洗浄に用いる。希釈濃度は、(0.5) %で使用する。

- ・（ 酸 ）性洗剤は（ 無機質 ）を除去するために、（ 3～4日 ）に1回洗浄に用いる。希釈濃度は、（ 0.5～1.0 ） %で使用する。
- ・洗剤は、（ 70～80 ）℃以上の温水に希釈して利用する。一般に（ 高温 ）のほうが洗浄力は高い。
- ・殺菌剤の希釈利用は、常温から（ 43 ）℃以下で必ず行う。（ 高温 ）では殺菌能力が持続しない

（ アルカリ・無機質・タンパク質・酸・炭水化物・高温・低温・脂肪・毎日・3～4日
43・80・0.5・0.5～1.0 ）

(7) ミルカーの日常管理すべきチェック箇所は

真空ポンプ、調圧器（レギュレーター）、真空圧、システムのエア漏れ、ライナー、エアーブリードホール（ミルククロウの穴）、チューブ類、パルセーター、自動洗浄システム

(8) 搾乳作業の手順について

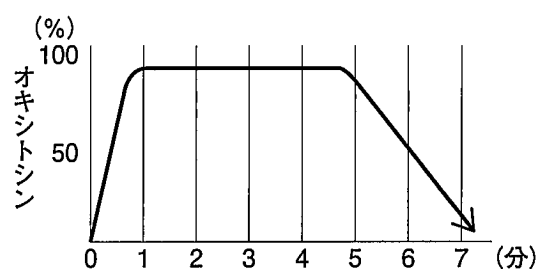
○ポストデッピング

1. 前搾り
2. 乳頭清拭
3. 乳頭乾燥
4. ユニット装着
5. ユニット離脱
6. ポストデッピング

○プレデッピング

1. 前搾り
2. プレデッピング
3. ふき取り
4. ユニット装着
5. ユニット離脱
6. ポストデッピング

(9) オキシトシンの分泌量と時間について図示してください



(10) 搾乳牛では、興奮するとアドレナリンを分泌し、乳を出すのを止めたり排糞する等の現象が見られます。そのストレスを3分類に分け具体的に例示してください。

- ・不快なこと …搾り手の変化、時間変動、牛舎環境、飼料品質、真空圧変動など
- ・痛いこと …乳房炎、蹄病など
- ・恐怖心 …乱暴な作業、騒音、環境に慣れない初産牛など

(11) 前搾りの効果は（3つ）

- 1 ブツなどの乳汁異常を確認することで、乳房炎牛の発見が可能となる。

- 2 乳頭内の汚れた生乳および前の搾乳時に使用したデッピング剤を廃棄することで、出荷乳への混入防止ができる。
- 3 乳頭への刺激が搾乳刺激となり、脳下垂体から泌乳ホルモン（オキシトシン）の分泌が促進される。

(12) デ IPPING の目的は

搾乳直後は乳頭口が開いているため、乳房炎原因菌が進入する可能性が高い。この対策として搾乳後に殺菌剤で消毒することで乳房炎の感染を予防すること。

搾乳前のプレデッピングと搾乳後のポストデッピングの2種類がある。

(13) 過搾乳の影響とその理由は

過搾乳により乳頭先端の乳頭筋・ケラチン層の損傷や乳頭表皮のヒビ割れ等が発生し、乳房炎原因菌の乳頭内への進入や乳頭表皮の原因菌の定着が起こり、乳房炎が多発する要因となりうる。

過搾乳の要因は、ミルカーシステムのセッティングミスや故障、搾乳技術の未熟が主要因。マシンストリップングやミルカーの付けすぎに細心の注意を払う必要がある。

(14) 牛の胃は第一胃から第四胃までありますが、第一胃と第四胃の機能（働き）について記述してください。

(第一胃)

消化管全体の50%以上（ドラム缶約1本分）の容積があり、飼料をルーメン内に生息する微生物が、分解・発酵するとともに絨毛から様々なものを吸収する。

(第四胃)

人間の胃と同じ機能を持ち、消化酵素と胃酸が分泌される。

(15) 搾乳牛は、体重や産乳量・採食内容によるが、1頭当たり乾物摂取量はおおよそ

(20～25) kg、飲水量は、(60～100) ℓ、糞尿は (60～65) Kg排出するといわれている。

(16) 乳牛飼料計算の目的は

乳牛の要求する栄養をバランス良く補給し、乳牛の能力を最大に発揮させる。

(17) DMIとは

乾物摂取量

(18) 貴方がヘルパー作業中、次のような牛がいました。その徴候と対応について記述してください。

○発情の徴候

スタンディング、マウンティング、外陰部の弛緩・腫張、膣粘膜充血、発情粘液の漏出、歩行行動（歩き回る）、他の牛に近寄る、外陰部を嗅ぐ、鳴く、吠える

※最も重要な徴候であるスタンディングが解答されていれば合格点。その他1つ以上解答があれば満点。

対 応

記録と報告－畜主との引継ぎ規則に従い、牛舎の連絡ボード、繁殖台帳、引継ぎ記録表などに牛No・日時・状態などを記録または直接報告する。人工授精が必要な場合は授精適期のうちに依頼する。

○分娩の徴候

食欲低下、横臥時間増加、乳房腫張・漏乳、尾根部陥没、陣痛開始、足胞出現、破水

対 応

分娩房または広く平坦な場所に清潔な敷料を敷き、牛を移動する。破水後、1時間以上経過しても娩出しなかったり、胎仔の体勢に異常があれば、整復・牽引などの介助を行う。異常が認められたら全てを一人で行うことはせず、畜主または獣医師などに応援を求めるのが無難である。

○乳房炎の徴候

前搾りの際に乳の異常（ブツの出現、変色、異臭など）、乳房の腫張・硬結・熱感などを認める。全身症状を呈している場合は食欲不振・発熱などを示すことがある。

対 応

PLテストなどの簡易検査で状態を確認しておく。症状を畜主または獣医師に報告する。治療を行う場合は指示に従って乳房炎軟膏注入などを実施する。乳房炎牛は他の牛と認別できるようにし、乳は出荷乳に混入しないようにし廃棄する。

(19) 乾乳牛の定義と目的

定 義 泌乳をしていない期間の牛であり、次の分娩への準備期間。

目 的 乳牛にとっては、乳腺組織・ルーメン・蹄の回復を図ると共に、次の分娩への準備期間。胎児の成長が急激に起こるので、その分の栄養を補給する必要がある。

(20) 分娩時に乳熱が発生することがありますが、酪農家でできる代表的な手当を記述してください。

高齢・高泌乳の乳牛、乳熱病歴がある乳牛、寝起きの悪い乳牛、乾乳期の採食量の少ない乳牛は乳熱を発生しやすいことから、敷料を多く敷き詰めて滑走を防止した分娩単房へ移動させる。

第2リン酸カルシウム、グルコン酸カルシウム、プロピオン酸カルシウムなどの製剤を飲ませる。

乾乳後期の飼料管理として、カルシウム・リン比率に配慮した低カルシウム飼料を給与する方法や飼料中の陰イオン－陽イオン含量を調節する方法などがあります。又、ビタミンD3剤の筋肉注射も知られています。

(21) 初乳の特徴と給与する目的は

・特 徴

分娩後に母牛から最初に搾られた牛乳であり、IgGなど子牛に必要な免疫物質を多く含む。脂肪・タンパク質などの栄養価も高く、ビタミン・ミネラルも含有している。2回目以降の乳は移行乳と呼ばれる。

・ 目 的

子牛は免疫抗体を持っていない状態で生まれてくるため、病原菌に対して抵抗力がない。免疫グロブリンが多く含まれている初乳を摂取する事で、母牛の免疫抗体を獲得することができる。尚、子牛の免疫グロブリン吸収率は出生後時間の経過とともに低下するため、できるだけ早く飲ませる必要がある。

(22) 畜排せつ物法とは

家畜の排せつ物の適正化および利用の促進に関する法律

(23) 堆肥化を促進する条件を6つ挙げよ

微生物、栄養、水分、空気（酸素）、温度、時間

(24) サイレージとは

飼料作物（青刈りした牧草やとうもろこし）をサイロやバンガー等に切断・踏圧などを加え貯蔵し、嫌気性菌の働きにより乳酸発酵させたものをいう。サイロやバンガーなどに詰められた飼料作物は、嫌気性菌による発酵により乳酸や酢酸などの有機酸の比率を増やすことで、pHが下がり、牧草の腐敗の原因となるカビや好気性菌類の活動を抑え長期保存が可能になる。

3 公益財団法人中国四国酪農高等学校（問題例）

酪農ヘルパー研修理解度チェック試験

公益財団法人中国四国酪農高等学校

所 属 _____

氏 名 _____

- 1 下の語群から適切な語句を選び（ ）内にその番号を記入しなさい。

分娩後五日以内の牛から搾った乳を（ ）といい、（ ）とは大きく成分が異なるため、出荷できない。また、（ ）を投与した牛では生乳に移行する恐れがあるため、出荷できない期間が定められている。（ ）にかかった牛の乳には（ ）が混入し、成分も通常の乳とは異なっている。

- ①蹄病 ②搾乳 ③抗生物質 ④泌乳 ⑤乳房炎 ⑥初乳
⑦液 ⑧原因菌 ⑨常乳 ⑩鉍塩

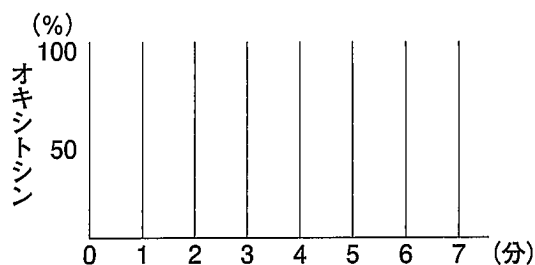
異常な蛋白質プリオンが牛の食肉等を介して人間に感染する恐ろしい病気で、日本では（ ）と呼ばれている。感染すると5年～7年を経過して発病する。人間に感染すると脳の神経細胞が萎縮し（ ）になることが知られている。この病気はイギリスに大発生しているが、最近では（ ）にも大発生しており、日本でも発生が確認されている世界的な病気である。

- ①潜伏期 ②畜産業界 ③ヨーロッパ ④スポンジ状態 ⑤BSE

- 3 なぜ前搾りを行う必要があるのか、その理由を4つ答えよ。

- ①
②
③
④

- 4 搾乳刺激から始まるオキシトシン分泌の概念図（時間と量）をかき、ミルカー装着の時期を記せ。



5 正解を○で囲みなさい。

- (1) パドックやフリーストール牛舎などで発見される発情行動を（オブシンク、スタンディング マウンティング）といい、（上、下）になって動かない方が発情している。
- (2) 発情発見後の人工授精では（発見時、1時間後、半日後、1日後）の受胎率が最も高い。
- (3) 牛の正常分娩では胎子は二次破水後（頭、前肢、後肢）から娩出される。

6 配合飼料高騰の原因について記入しなさい。

- ①・
- ②・
- ③・
- ④・
- ⑤・

7 飼料の定義を答えなさい

8 粗繊維の役割について、知っていることを書きなさい

- ①・
- ②・
- ③・
- ④・

9 牧草や草地の管理について次の問に答えなさい

- (1) 乾草の調整は、連続晴天日を3～5日必要とし、天候の制約を受けやすい。サイレージ調整は、水分含量（ ）%の材料を貯蔵するため、天候に対する安全性が（ ）。
- (2) 同一草種の草地を同一の方法で管理すると、収穫適期が（ ）となり、規模が大きい場合はかなりの草地が収穫適期を逃すことになる。

10 イネ科牧草の刈取り適期はいつ（何期）ですか？

11 あなたが酪農経営をするとした場合粗飼料を栽培するかしないかをその理由を述べて記せ。

（粗飼料栽培の有無と理由を記入）

4 (回答例)

酪農ヘルパー研修理解度チェック試験

公益財団法人中国四国酪農大学校

所 属 _____

氏 名 _____

1 下の語群から適切な語句を選び () 内にその番号を記入しなさい。

分娩後五日以内の牛から搾った乳を (⑥) といい、(⑨) とは大きく成分が異なるため、出荷できない。また、(③) を投与した牛では生乳に移行する恐れがあるため、出荷できない期間が定められている。(⑤) にかかった牛の乳には (⑧) が混入し、成分も通常の乳とは異なっている。

- ①蹄病 ②搾乳 ③抗生物質 ④泌乳 ⑤乳房炎 ⑥初乳
⑦血液 ⑧原因菌 ⑨常乳 ⑩鉍塩

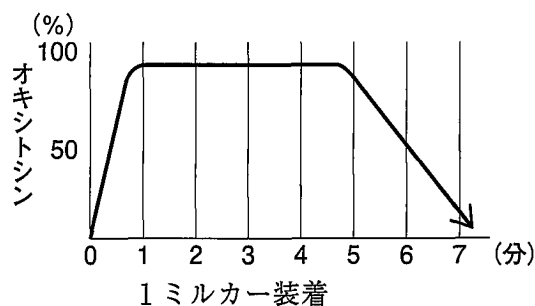
異常な蛋白質プリオンが牛の食肉等を介して人間に感染する恐ろしい病気で、日本では (⑤) と呼ばれている。感染すると5年～7年を経過して発病する。人間に感染すると脳の神経細胞が萎縮し (④) になることが知られている。この病気はイギリスに大発生しているが、最近では (③) にも大発生しており、日本でも発生が確認されている世界的な病気である。

- ①潜伏期 ②畜産業界 ③ヨーロッパ ④スポンジ状態 ⑤BSE

3 なぜ前搾りを行う必要があるのか、その理由を4つ答えよ。

- ①乳頭先端に貯まっている細菌数の多い乳の排除
②異常乳の発見
③通乳を良くする
④搾乳刺激を補完する

4 搾乳刺激から始まるオキシトシン分泌の概念図(時間と量)をかき、ミルカー装着の時期を記せ。



5 正解を○で囲みなさい。

- (1) パドックやフリーストール牛舎などで発見される発情行動を（オブシンク、スタンディング、マウンティング）といい、（上、下）になって動かない方が発情している。
- (2) 発情発見後の人工授精では（発見時、1時間後、半日後、1日後）の受胎率が最も高い。
- (3) 牛の正常分娩では胎子は二次破水後（頭、前肢、後肢）から娩出される。

6 配合飼料高騰の原因について記入しなさい。

- ・ トウモロコシなどのバイオエタノールへの利用
- ・ 気候変動による作物の不作
- ・ 伝染病発生による輸入禁止
- ・ 原油高騰による輸送費高
- ・ 国内供給のため輸出禁止など

7 飼料の定義を答えなさい

家畜の生産を維持又は増進する目的で家畜に給与するもの
(栄養素を含み、家畜の食べられるもの)

8 粗繊維の役割について、知っていることを書きなさい

- ・ 第1胃を刺激し、反芻・咀嚼及び唾液の分泌を促進する
- ・ pHの低下を抑え、微生物の働きを活発化する。
- ・ ルーメンマットを形成し、粒子の細かい飼料の滞留時間を長くし、消化率を向上させる。
また、これにより糖やデンプンによる急激なpH低下を抑制する。

9 牧草や草地の管理について次の問に答えなさい

- (1) 乾草の調整は、連続晴天日を3～5日必要とし、天候の制約を受けやすい。
サイレージ調整は、水分含量（40～85）%の材料を貯蔵するため、天候に対する安全性が（ 高い ）。
- (2) 同一草種の草地を同一の方法で管理すると、収穫適期が（ 一斉 ）となり、規模が大きい場合はかなりの草地が収穫適期を逃すことになる。

10 イネ科牧草の刈取り適期はいつ（何期）ですか？

出穂期

11 あなたが酪農経営をするとした場合粗飼料を栽培するかしないかをその理由を述べて記せ。

(粗飼料栽培の有無と理由を記入)

Ⅲ セミナー（酪農ヘルパー養成研修）カリキュラム及び 受講者感想文

1 地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場（新得町）

〈24年度第1回カリキュラム〉 平成24年度 第1回酪農ヘルパー専門技術養成研修 日程表

（開催場所：北海道立総合研究機構 畜産試験場セミナー室）

時間	1日目 4月16日（月曜日）	2日目 4月17日（火曜日）	3日目 4月18日（水曜日）	4日目 4月19日（木曜日）	5日目 4月20日（金曜日）
9:00		③乳牛の飼養管理（経産牛） 【9:00～11:00】 北海道立畜産試験場 技術普及室 上席普及指導員 三浦 康雄 氏	⑦乳房の構造と泌乳生理 【9:00～11:00】 北海道立総合研究機構 畜産試験場 家畜衛生グループ 研究主幹 平井 綱夫 氏	バスにて移動（8:00出発） ⑪よつ葉乳業 十勝主管工場視察 【9:00～10:30】 よつ葉乳業十勝主管工場 担当者	⑭北海道における酪農畜産の情勢 【9:00～11:00】 JA北海道中央会 帯広支所 営農農政担当 土屋 慶年 氏
10:00					
11:00	受付開始、オリエンテーション	④乳牛検定の目的と活用方法 【11:00～12:00】 十勝農協連 酪農畜産課	⑧家畜衛生・防疫対策の基本 【11:00～12:00】 北海道立総合研究機構 畜産試験場 家畜衛生グループ 研究職員 藤井 啓 氏	⑫十勝農協連畜産検査センター視察（生乳の検査業務に関する説明）	理解度チェック、アンケート記入 閉講式 （社）酪農ヘルパー全国協会 事業部長 沼崎 武 氏
12:00	昼食 開講式	昼食	昼食	昼食（場所：農産化学研究所）	
13:00	①コミュニケーションの重要性 【13:00～16:00】 （有）石田コンサルティング 代表取締役 石田 邦雄 氏	⑤乳牛の飼養管理（育成牛） 【13:00～15:30】 北海道立畜産試験場 技術普及室 主任普及指導員 西村 孝雄 氏	⑨乳牛の繁殖管理 【13:00～15:00】 十勝農業共済組合 家畜指導課 森谷 浩明 氏	（搾乳作業・搾乳衛生に関する講義） 【11:00～14:00】 十勝農協連 畜産検査センター 勝見 武史 氏	
14:00					
15:00		⑥糞尿処理の基本 【15:30～17:00】 北海道立総合研究機構 畜産試験場 飼料環境G 主査 湊 啓子 氏	⑩乳牛の疾病と予防対策 【15:00～17:00】 十勝農業共済組合 家畜指導課 森谷 浩明 氏	⑬十勝農協連農産化学研究所視察（飼料分析業務に関する説明）（自給飼料の特徴に関する講義） 【14:30～16:00】 十勝農協連 農産化学研究所 渡邊 敏博 氏	
16:00	②酪農ヘルパー事業の概要 【16:00～18:00】 （社）酪農ヘルパー全国協会 事務局長 佐藤 元二 氏				
17:00					
18:00	夕食	夕食	夕食	意見交換会	

※4日目（4月19日）については管内視察を実施する

25年度第1回研修風景



研修寮「若葉荘」



セミナー開始



オリエンテーション



道JA中央会根釧支所千葉職員から説明



小山田講師の講義



マナー講義 石田講師

24年度第1回酪農ヘルパー専門技術員養成研修（新得町）

場 所 北海道立総合研究機構畜産試験場セミナー室
期 間 平成24年4月16日～20日
参加人員 27名

感 想 文

1. I.Y 有限責任事業組合帯広畜産センター

私は実家の後継者として、3年ヘルパーで働いて多くの酪農家を見て勉強しようと思い、ヘルパーになりました。

今回の研修では、乳牛の飼養管理について細かく講義がありました。私の知っている基本的な事から専門的な事まで多くのことを学んだと思います。ヘルパーになり、実際に現場に行くと、毎日違う農家へ行き、その農家によって作業も違います。この研修では、哺乳の仕方、搾乳の仕方、牛の呼び方、農家によって全く違うたくさんのやり方を学べた気がします。また、今の酪農家の現状などについても、この仕事に携わっているものとして勉強になりました。

視察についても、私たちが生産する牛乳の行き先等も見られました。もう少し言うならば、自分の意見ですが、酪農家視察等もあれば、もっと勉強になる気がしました。

2. S.A 有限責任事業組合帯広畜産センター

今回、この研修に参加してみて一番大切だと感じたことは最初の講義のコミュニケーションについてです。

乳牛や畜産ということについてはある程度理解していたつもりだし、学習したけれど、失礼のないような話し方や会社での言葉遣いや行動を今まで通りでは良くないと思いました。

酪農に対する知識や仕事については、初めから出来る人はいないと思うので、誰でも初めから出来る挨拶や返事はとても重要な事だと思います。

私の考えでは、先輩方を見ても挨拶を出来る人は仕事も出来ると思うので、まずはそれをしっかりするようにしたいと思います。また、他の新人ヘルパーの方々と協力出来ることは協力して、農家さんに信頼されるヘルパー組合を作っていけたら良いと思います。

3. T.R 有限責任事業組合帯広畜産センター

私は5日間の研修で、酪農の仕事の色々な事を学びました。1日目の授業では主に牛舎の中の事を学びました。

乳房炎のことや分娩・出産等、牛の健康に関する事や堆肥の野積みによる環境汚染の問題等、かなり自分の考えている以上に重大だと思いました。

そして1日目の研修の中で、一番頭に残っているのは口蹄疫の話です。話をしてくれた先生が実際に宮崎県で作業した内容を聞いて、あまりにもひどいなと思いました。しかし、自分達ヘルパーの仕事の中でも万が一の危険性があることだと思いますので、長靴の殺菌、つなぎはきれいにしておく等、自分達自身で殺菌消毒を徹底しておかなきゃと思いました。

今回の研修は長かったのですが、とても重要なことを学びました。

4. K.T 有限責任事業組合帯広畜産センター

このヘルパー研修を受講して、これから活かしていけるような事が学べていい経験が出来ました。

全部大事なのですが、特に自分が気になったのは乳房炎です。乳房炎には2つの型があるということ、乳房炎の予防としては搾乳衛生、搾乳施設・機器の整備、畜産環境の整備等色々なことを学びました。

これからは、ここで習った事を活かして乳房炎にならないようにしっかりと拭いて、決められた時間にディッピングを付ける等、これからの仕事で心がけていきたいと思いました。もし、わからなくなったら、この研修でもらった資料をもう一回見たいと思います。

5. K.C 有限責任事業組合帯広畜産センター

今回、酪農ヘルパー専門技術員養成研修5日間かけて受講して、畜産に関する知識を学ぶことが出来ました。非農家出身の私は、全くと言っていいほど酪農の事はわかりませんので、この講習はとてもこれからの仕事に役立つ話ばかりでした。

特によく学べた事は、「乳牛の疾病」、「コミュニケーションの重要性」の二つです。

「乳牛の疾病」については、講師の教え方が上手で頭に入ってきました。

「コミュニケーション」のことはやはり農家さんとの会話等も必要不可欠と学び、大変勉強になりました。

四日目のよつ葉乳業の視察も、とても貴重な社内見学をさせていただきたいと思います。

この5日間、全てが役立つことばかりで、今後は今回学んだことを活かしていきたいと思います。

6. T.R (有)中札内村ヘルパー利用組合

最初の講義はコミュニケーションの重要性についてでした。ヘルパーをやる上でもっとも大切なことだと思いました。基本的な挨拶のやり方一つで相手の印象を変えてしまうということを聞いて、しっかりしなければならないと思いました。これからヘルパーを続けていく上で大切な講義をたくさん聞けてとても勉強になったと思います。この経験を教訓として、各農家さんの所で活かしていきたいと思います。

挨拶、乳房炎を予防するように心がける、搾乳作業を円滑にする等をしっかり守ってこれからのヘルパー業務をしていきたいと思います。

本当にこのセミナーを受講して良かったと思います。改めて気付かされた点がたくさんあったのでもう一回初心にかえてこれから頑張っていきたいと思います。

7. N.A (有)中札内村ヘルパー利用組合

今回、この研修に参加するに当たって、ヘルパーとしての知識向上はもちろんのことですが他地域のヘルパーの人達と交流出来るので期待もありましたが不安もありました。ですが、いざ研修が始まるとその不安はなくなっていました。皆さんいい人ばかりで毎日楽しく過ごすことが出来ました。

私は酪農未経験だったので講義で聞く事一つ一つが新鮮でしたが、基礎がない分、理解するのは大変でした。研修が終わり、仕事に戻った時はここで得た知識を日々の仕事で活かしていきたいと思います。また、何かの縁で知り合えたヘルパーの人達とも今回限りということなく、交流をしていけたらなと思います。

研修が終わるのは淋しいですが、仕事を頑張っていきたいと思います。

8. S.T 更別村酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回、5日間にわたる新人ヘルパー研修を終えて、実家や高校、大学で一度は聞いたことがあ

る話が多く、講習自体で新しく学べたことは少なかったなという印象でした。

今まで当たり前だと思っていたことを今回の講習で再度聞いて、基礎の大切さということは学べた気がします。また、他の組合の新人ヘルパーさん達と交流が出来て、高校や大学とはまた少し違った人との出会いが出来たのも良い経験になりました。これから交流の機会があるかはわかりませんが、せっかく知り合ったので、こういった出会いは大切にしたいと思いました。

今回の研修で改めて基礎の大切さを学ぶことが出来ました。この研修で得たことをこれからのヘルパー業務に活かしていきたいと思いました。

9. K.N 更別村酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回の研修では、乳牛の飼養管理、感染症、繁殖管理、堆肥処理の方法等を学ぶことが出来、乳業メーカーや牛乳を管理している所の見学などもありました。これらのことは普段働いている中では、なかなか時間を作って、というのは難しいので、とても貴重な時間でした。今回教えていただいたことはこれからの仕事、ヘルパーを辞めて家に就農した時にも役に立つ知識ばかりだったので活かしていきたいと思います。

また、ヘルパーはサービス業だということで、人とのコミュニケーションについての講義は初めてだったので新鮮でした。ヘルパーは仕事だけ出来れば良いという訳ではないので、牛とも酪農家さんともより良く付き合えるようにこれからの仕事を頑張ろうと思いました。

10. Y.K 南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合

私は当初、この研修を受講するつもりはありませんでした。牛や糞尿に関する知識は学生時代に身につけていたし、8年以上も酪農現場で働いてきたので、事務局から参加の要請が来ても断っていましたが、今回は4月に入った新入社員4名のお目付け役として強制的に派遣されました。

しかし、いざ受講してみると、興味深い講義や見学が多く、大変勉強になりました。特に参考になったのはコミュニケーションについての講義で、ヘルパーは「人相手のサービス業なので、いくら牛や機械の仕事が出来ても農家さんや同僚達と上手くコミュニケーションを取れなければヘルパー失格である」と痛感させられました。

講義後の世代を超えた宴会も楽しく、実りのある研修だったと思います。

11. S.Y 南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合

私は、今回ヘルパー研修を受講して、ヘルパーの仕事の重要さと大変さを知ることが出来ました。特に乳房炎は自分の作業手順一つで増やしてしまうことを認識しました。農家それぞれに使っている機械も作業方法も違うので、どこの農家にも適応出来るように基本をしっかり覚えなければいけないと思いました。

また、普段、なかなか入ることの出来ない「よつ葉乳業」の工場視察も大変貴重な経験でした。牛から搾った牛乳が製品になっていくのが自分の目で見ることが出来たのは本当に良い視察でした。

今回のヘルパー研修で得た知識を活かして一人前のヘルパーになれるように努力していきたいです。素晴らしい研修をありがとうございました。

12. Y.T 南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合

初めは何をするのかわからなかったし、人数も少ないだろうと思ったのですが、十勝の新人ヘルパーや十勝以外からもたくさん来ていてびっくりしました。

勉強は人間関係とかコミュニケーションの事をやりました。仕事をするに当たって欠かせないことだと聞きました。自分は人と話すのが好きな人で安心したのですが、初めて会った人とはフレンドリーに話せなかったから、そこを改善し、知らない人とも話せるようになれたらいいなと思いました。がんばります。

牛の飼い方を失敗したら病気になったり、乳を出さなかったり、最悪、死んだりするので農家さんはいつでも牛を気にする必要があると思いました。

これからがんばっていきたいです。

13. U.K 南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合

私は一番初めのコミュニケーションの話を聞き、前の派遣先の方が優しくて、でも、まだ色々な派遣先に行くのですごく勉強になりました。

概要の講習ではやはり高卒では少し難しい説明だなと思いました。2日目では、糞尿処理の講習以外はすごくわかりやすく勉強になりました。糞尿の時は声が小さく、聞こえなくて、スライドも難しくてよくわかりませんでした。

3日目は全部がわかりやすく、興味のある講習だったのですごく勉強になりました。

4日目は色々な所へ行き、貴重な社内視察をさせていただき、大変勉強になりました。

これからは消費者のことも考えながら仕事をしていこうと改めて思いました。

14. S.K 南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合

5日間、短い期間でしたが様々な講義を聞き、そしてよつ葉乳業を始め2つの施設を見学させていただき、とても有意義な研修でした。

講義の内容は酪農ヘルパーにとって必要なものばかりでとてもためになったと思います。 コミュニケーションや乳牛の飼養管理、病気、予防対策等自分の知識が少しレベルアップしたと思います。

まだまだ、研修生ですので知識も技術も浅いですが、ここで学んだ数多くの経験を精一杯活かし、頑張っていきたいと思います。

忙しい中、ヘルパー研修の中で様々な内容をわかりやすく教えていただき本当にありがとうございました。

ここで学んだことを決して忘れることなく、酪農ヘルパーとして酪農家の方々に信頼していただけるよう頑張っていきます。

15. U.T 十勝清水町酪農ヘルパー有限責任事業組合

ヘルパー研修に参加して普段の作業とは別の視点から学ぶことが出来ました。

普段の作業では気付きにくかったことも今回の研修によって、これからの作業でしっかり気付いて作業出来るようになると思いました。

研修で出会った他のヘルパーの人達と仲良くなれたこともこの研修の中で大きな部分だと感じました。

5日間という短い期間の中で多くのことを学ぶことが出来、更にたくさんの仲間が出来たのでこの研修に参加して良かったと思いました。

この研修で学んだことをこれからの作業にしっかり活かせるように頑張っていきたいと思いました。

16. I.Y 十勝清水町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回研修を受けて色々な事を学ぶことが出来ました。酪農ヘルパーの大事なことはコミュニケーションが第一だということを教えてもらいました。

また、乳牛の飼養管理（経産牛・育成牛）、糞尿処理の基本、乳牛の家畜衛生・防疫対策、繁殖管理の基本、乳房の構造・疾病と予防対策等々、色々な酪農ヘルパーに必要な知識を得る事が出来ました。

これから酪農家になる第一歩の勉強になりました。私は、基本になることを学ぶことが出来ました。もっと酪農に関する勉強をしていきたいと思います。

長い時間、研修を受けましたがとても良い勉強になりました。ありがとうございます。

17. Y.H 十勝清水町酪農ヘルパー有限責任事業組合

私が酪農ヘルパーとして働き始めてから2週間が経過しています。今回の研修を受講し、私はヘルパーとして酪農に携わっていくための覚悟がまだまだ足りなかったなあ、と実感しました。

これは、家畜の疾病や防疫の話聞いて特に思ったことです。えさを上げて、搾乳をするということを考えるだけで精一杯な部分もありますが、私の行動一つで牛を殺すことも救うこともあるということを常に意識していかなければならないなあ、と思いました。

宮崎のような被害を出さないためにも、私が感染源にならないよう、また、調子の悪そうな牛を見つけたらすぐに農家さんに報告するように心がけていきたいです。

今回の研修で得た知識を活かし、立派な一人前のヘルパーになれるよう努力していきたいと思っています。

ありがとうございました。

18. S.M (有)鹿追町デールイサービスカンパニー

本養成研修を受講して、日頃なかなか体験出来ない事や新たな事を発見してとても良い研修でした。自分達が普段、日常の仕事をしていて、きれいにすること、しっかり搾ることは当たり前ですが、それ以前に人としてどう思われるかという点について本研修でとても考えさせられました。

農家あつてのヘルパーなので、もちろん信頼してもらいたいの、一日でも早く、一戸でも多くの農家の方に顔を覚えてもらいたいです。そのためには人としてのマナーや相手の観察等をしっかりして、一人の人間としてもっと学んでいきたいと思っています。

また、この機会に集まった仲間との交流でも様々な話が聞けて、これからのヘルパー生活にとってもよい刺激になりました。

これらの良い経験を十分に活かしていきたいと強く思いました。

19. T.E (有)鹿追町デールイサービスカンパニー

この度の研修を通して、普段は聞くことの出来ない専門的な講義を受けられたこと、また、様々な地域から集まったヘルパーの仲間達に出会えたことは大変貴重な経験となりました。

各講義では、乳牛の飼養管理の基礎、糞尿処理、泌乳生理、家畜衛生、繁殖管理、疾病と予防対策等、日々の業務の中で当り前に触れている事柄でありながら、曖昧な理解しか出来ていないものが大半であったのでとても勉強になりました。

特に泌乳生理、家畜衛生、繁殖管理については、実践の場ですぐに活用出来ることが多くありましたので、得た知識を今後の業務に有効に役立てていきたいと思っています。

また、研修初日の「コミュニケーションの重要性」については、大変重要なことでもありますの

で、教えていただいたことを心に留め、「酪農ヘルパー」という看板を背負ったヘルパーとしての自覚を持ち、責任ある行動をとっていきたいと思います。

今回の研修を受けさせていただき、ありがとうございました。

20. I.Y (有)鹿追町デーリイサービスカンパニー

ヘルパー研修に参加してコミュニケーションがとても大事だと思いました。酪農や畜産の基礎や知識はある程度学校で学んできました。しかし、酪農ヘルパーで一番必要なのは酪農家さんとのコミュニケーションで信頼を得ることだと思います。実際、私は人見知りを言い訳に酪農家さんに挨拶をしないことがあり、注意されることがありました。会話でも相手が声をかけない限り話をしなかったこともありました。

今回の研修で学んだコミュニケーションを活かして、少しずつ酪農家さんから信頼を得られるよう頑張ろうと思います。そして将来は酪農家さんからも会社からも頼られる人材になりたいです。

21. M.Y (有)鹿追町デーリイサービスカンパニー

私は、今年の4月に現在の会社に入社し、見習い中として農家さんへ研修に行ったり、実際に社員の方と仕事に行かせてもらったりして必死に経験を積んでいっている最中です。そんな中、今回の初任者研修で自分より年下の子から、仕事経験のある方までと様々な人たちが集まり、交流を深めながら、一緒に学んだり、意見交換したりと大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

また、こうして同じ仕事をする仲間が出来、前より更に仕事に対する意欲が湧いてきたように思います。今回、この研修で学んだ事を仕事に活かしていきたいと思います。

五日間、どうもお世話になりました。

22. M.M 音更町デーリイサービス

半年ほど前に大特の免許を取得した時にも思ったのだが、何故、学生の頃はこうも眠くならずに授業を受けられたのだろうかと思ひながら座講に勤めました。

内容はどちらかというと酪農家さんの事についてで、ヘルパー業務において必要な知識ではなかったのが意外で少し残念でした。ですが、農業学校出ではない私にとっては悪い研修ではなかったな、と思います。特にコミュニケーションの重要性が今のところ一番良かったと同時に自分の至らなさを思い知らされました。

もう一つ印象に残ったのは乳牛の疾病と予防対策で、乳房炎を始めとするヘルパーにとってもトラブルになる原因を学べたのは良かったと思います。業務に結びつく内容は聞いていて楽しく、ためになりました。

23. U.C 音更町デーリイサービス

私は今まで、酪農について詳しく勉強をしてこなかったため、今回の研修はとても興味のあるものでした。学校では畜産について少し学びましたが、糞尿の処理や詳しい乳牛の飼養管理についてなど専門的なことは初めて聞くことが多くあったので、理解して覚えていくのは大変でした。

また、来る前は初めて会う他のヘルパーの人達と仲良くなれるか不安でしたが、とても友好的な人が多かったため、5日間楽しく過ごすことが出来ました。他の組合や牧場の話は自分の働く所とは違うことも多く、参考になることもたくさんあったので、これからに活かしていけたらいい

いと思います。

今回の研修で新しい知識をたくさん得ることが出来、とてもいい経験をさせていただいたのでよく復習し、仕事に反映させていきたいです。

24. U.D 本別町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回、このヘルパー研修を受講して様々なことを学ぶことが出来ました。

まず、最初は意外なことにコミュニケーションの大切さです。人とうまくコミュニケーションを取ることで信頼関係を築くことが出来、うまく仕事をする事が出来ると感じました。

次に糞や尿の排泄量等です。牛の糞や尿は年間2千万トンの量が発生するそうです。ドラム缶(200ℓ)で1億本、学校のプールで5万施設分だと聞いて、とてもすごい量だと思いました。そして排泄物の管理にもとても厳しい基準があるのも知り、勉強になりました。

最後に乳房炎や口蹄疫についてです。乳房炎は食欲低下等があり、口蹄疫には口が荒れたりする、涎が出る等大変だと思いました。

25. E.M 足寄町酪農ヘルパー運営有限責任事業組合

今回研修に参加して感じたことは、とにかく話が難しいと感じました。私は実家も高校も酪農とは接点がないままヘルパーという仕事をする事になったので、ヘルパーとして当り前の知識がなく、様々な人の話を聞く時はとても苦労しました。

そんな私でしたが、コミュニケーションの重要性については生きていく中で非常に重要なことなので話を聞くことが出来、充実した時間となりました。

また、この研修で様々な地域のヘルパーさん達との交流出来てとてもよい経験になりました。地域の様々な仕事の仕方や異なった部分の話をして、その話を自己の成長につなげられるようになりたいです。

今後、この研修で学んだことをこれからの仕事に活かし、充実した仕事が出来るようになればいいなと思いました。

26. S.M 八雲町デーリィハッピーワーク利用組合

今回、この講習を通して今まで見落としていたこと、見ようとしていなかったことを身を持って体感し、そして自分の視野も広がり、新たな出会いも経験して人脈も広がったと思っております。

私自身、酪農家の息子であったため、幼いころから牛に触りながら疾病について深く考えずにいたことを身に沁みて感じました。この講習で初めて原因から経過などを理解したのでこれからの仕事に活かしていきたいと考えているところです。

そして、一緒にこの講習を受講した方々とも親しくしていただき、感謝するとともに、今後、酪農ヘルパーという職を通じて情報交換をして、これからの北海道酪農をより高品質なものに昇華していけるよう精進して参りたいと思います。

27. H.K (有)ファム・エイ

ヘルパーとして働いて9か月ですが、知識は全然ないので学ぶことは山ほどありました。乳房炎になる原因や治し方を細かく学べたので良かったです。仕事に戻ったら、乳房炎に強くなったかを確認出来たらいいです。

サービス業の心得もたくさんあるんだなと思います。これからは笑顔を意識して仕事をして、リピート率を上げて頑張ればいいなと思います。

受講して学んだことを早く仕事に試してみるのが楽しみです。



研修開始



パワーポイントを使った講義

2 地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場（新得町）

24年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修（新得町②）

場 所	北海道立総合研究機構畜産試験場セミナー室
期 間	平成24年10月1日～5日
参加人員	12名

感想文

1. S.S 更別酪農ヘルパー有限責任事業組合

私はこのヘルパー講習で学んだことがたくさんありました。

まず、一つ目は、コミュニケーションの大切さや人とのやり取りはとても重要なことだと思いました。コミュニケーションをうまく出来ないと、仕事面でも不便なことが出てきたり、ミスをしてしまったりと自分だけでなく職場にも迷惑をかけてしまうので、会話の大切さを改めて実感しました。

二つ目は、私もそうですが、後継者向けの講義です。私は将来の後継者で、作業面はヘルパーで学べるのですが、基礎的部分を詳しく学びたかったのでこの講習を受けて本当に良かったと思っています。

今回の講習を活かし、これからの作業や実家を継ぐ時に役立てたいと思います。

2. T.S 十勝清水町酪農ヘルパー有限責任事業組合

講義に関しては、学校で習った事や今までの仕事で学んだ事が大半でしたが、忘れていたこと、知っているつもりで勘違いしていたこと等も多くあり良かったと思います。

視察も普段見ないような場所に行けて大変興味深かったです。ただ、少しくらい現場での実習があれば気分転換にもなり、良いと思います。

また、普段、他の組合のヘルパーさんと会う機会はほとんどないので、このような集まりでいろんな人と知り合え、情報交換等出来るのは有難いことだと思います。

3. K.N 有限会社鹿追町デーリィサービスカンパニー

私はこの研修会で酪農ヘルパー自体は勿論牛そのものについて勉強が出来ると期待していました。

実際、講義の内容はとても濃いもので難しいのですが、子牛や育成牛、牛乳の出来る仕組み、

病気と予防策、エサや糞尿のこと、コミュニケーションのことまで分かりやすく教えていただき、今まで「なんとなく」でしか分かっていなかったことが初めてきちんと理解出来たと思います。

今回、女性参加は私だけで心細くもありましたが、他組合の方々がお話に混ぜてくれること、気を遣って下さるので無事やってこれました。これから仕事をする中で、この研修会で学んだことを少しでも活かしていけるよう頑張りたいと思います。最後に五日間、お世話になりました、おやまださん、もんまさん、講義して下さった先生方、各関係者の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

4. F.A 有限会社鹿追町デーリィサービスカンパニー

五日間という短い期間でしたが、それぞれ専門の講師の方による講義、また、他社で活躍されているヘルパーさんとのコミュニケーションや情報交換等、非常に有意義で、ためになる時間を過ごすことが出来ました。

講義では、専門性の高い内容のものから基本的なことまで幅広く学ぶことが出来ましたが、より実務的な、例えばベテランのヘルパーさんによる仕事についての考え方や進め方等の講義もあったらいいなと思いました。

まったくの未経験からのスタートで、まだまだ学ぶことがたくさんあり、日々勉強中の身ですが、今回の研修で学んだこと、経験したことを今後に活かしていければと思います。

5. F.Y 音更町デーリィサービス

今回、ヘルパー研修を受講しまして、自分が一番取り組もうと思ったのは、他地域から参加された研修生の方々と交流することでした。他地域の農家の様子や、そのヘルパーの様子、仕事して酪農ヘルパーを選んだ理由等たくさんお話を伺うことが出来、とても刺激になりました。たった5日間でしたが、情報交換や今後の抱負等語り合うことが出来、とても有意義でした。この研修で出会えたのも何かの縁だと思うので、これからも交流をしていけたらと思います。

今後は一人前のヘルパーになるために、経験を積んで、酪農家の信頼を得られるように頑張りたいです。

この研修を終えて、一人のヘルパーとしてしっかり考えを持ち、頑張っていきたいです。

6. K.S 上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合

私は、牛に携わりたいという思いが強く、酪農ヘルパーという仕事を選びました。でも、牛のことについては全く知らず、仕事内容も分かりませんでした。なので、今回の5日間の研修はとても貴重な経験でした。

ヘルパーになってから3か月半位経ちましたが、自分が知ってたことよりもかなり多くの知識を得ることが出来たので、帰って仕事をし始めたら活かしていこうと思います。自分は何故、乳房炎になるのか分からずに仕事をしていたので駄目だなと思いました。でも、今回の研修で知ることが出来たので本当に良かったと思います。気を付けて仕事に臨みたいと思います。

7. I.A 上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回、ヘルパー研修に参加させていただき、全く酪農未経験の自分としてはとても勉強になる事ばかりで、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

「酪農」という職業に携わる方々の多さにもビックリですが、経済的な規模の大きさに産業としての魅力がびっしり詰まっており、改めてこの仕事の重大さややりがいについて認識しまし

た。

また、ヘルパー同士の交流についても、様々な経験を持った人々がおり、とても刺激になりました。

これからはバリバリ仕事をこなし、少しでも酪農が盛り上がるよう努めたいと思います。5日間ありがとうございました。

8. I.A 上士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回、受講することにより、他の地域の方の話を聞き、自分の考えを見直すいい機会になったと思います。

上士幌に帰った時には、自分から積極的に作業に取り組んでいきたいと思います。また、今回受講した中では、牛の発情周期が延びていること、その対処方法等を勉強することが出来たので良かったと思います。

いろいろな講義を聞いて、様々な先生の研究成果を知ることと自分の数少ない経験を活かして上士幌町酪農ヘルパーの仕事を通して酪農家さんと良い関係を結んでいきたいと思います。

9. Y.T 浜中町酪農ヘルパー組合

初日の台風でJRが運休して到着時間が遅れるというアクシデントが起きて日頃の行いを反省しております。

講習の内容はほとんどが基本的な事だったので、良いおさらいになりました。各地のヘルパーさん達との交流が今回の研修での一番の成果かも知れません。

普段の業務では、体験出来ないような勉強になりました。楽しい研修になったことを大変うれしく思うとともに、今後のヘルパー事業についても考えさせられる内容となりました。

これからは、ヘルパーとしての質をより一層高めることに尽力したいと思いますのでよろしくお願い致します。

10. Y.K 浜中町酪農ヘルパー組合

私は、この研修を通してコミュニケーションの大切さ、酪農、農業に関しての知識を教えてくださいました。

繁殖、感染症、乳牛飼養に関すること等、今後にとっても役立つこともありましたが、現実とはちょっと違うな、と思うこともあり、いろいろ考えさせられました。

他の組合の人達とはとても仲良くしていただき、意見交換や様々な交流を通して、コミュニケーションの大切さってこういうことなのかなと少なからず思いました。

この研修で学んだり、感じたものをこれからのヘルパー業務に役立てていきたいです。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

11. N.S SARUヘルパー利用組合

今回の酪農ヘルパー研修に参加して、いろいろなこと、特に牛についての専門知識を学びました。自分自身、知らないこと、理解していないことがたくさんあり、また、間違いを知りました。

今後は、今回の研修で学んだことを活用して業務に当たりたいと思います。

12. H.K 上富良野酪農ヘルパー利用組合

約2年前に初めて北海道に来ました。始めは住み込みで一年間働いていました。酪農は未経験

で毎日が不安でしたが、仕事が出来ようになってくると少しずつですが楽しい時も出来てきました。

その時、酪農ヘルパーをしている人に出会いました。たまに牧場で一緒に仕事や話をしていくうちに酪農ヘルパーという仕事に興味を持ちました。

実際、酪農ヘルパーに就いて農家ごとに人や牛、仕事ややり方も違うので慣れるまでが大変ですが、牛のかわいらしさに助けられています。

今回の研修は、社会人になって初めて団体生活を送りながらの研修で始めは不安で一杯でした。約一週間、生活を共にして人とのコミュニケーションの大切さが理解出来たと思います。他のヘルパーの仕事や生活等を話したりしましたが、地域によって違いがあることに驚きました。農家数やヘルパーの人数も違うので違いがあって当然かなと思いました。

約一年半の経験はありましたが、酪農や牛の事については知識不足でしたが、先生の講義を聞いて知らなかった事が少しですが、理解出来たと思います。

普段の仕事は観察が一番大事だと思いました。酪農ヘルパー研修で得た知識をこれからの仕事に活かし、一日でも早く農家さんに信頼される酪農ヘルパーになれるよう精進して行きたいと思っています。



旧畜産試験場



研修が行われている畜産試験場本館



本館前



畜産試験場視察研修広場

3 平成24年度第1回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会Aコース

場 所 ホクレン畜産技術実証センター
期 間 平成24年4月9日～20日
参加人員 11名

4 平成24年第2回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会

場 所 ホクレン畜産技術実証センター
期 間 平成24年10月15日～26日
参加人員 8名

5 平成24年第3回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会

場 所 ホクレン畜産技術実証センター
期 間 平成24年11月5日～16日
参加人員 8名

〈ホクレン畜産技術実証センターカリキュラム〉
平成24年度 第1回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会Aコース日程表
(平成24年4月9日～平成24年4月20日 12日間)

日程	月日	曜日	実習	学 科 ・ 実 技 ・ 講師名 ・ 時限数		実習
			5：00 ～ 8：00	9：00	13：00	15：00
1	4月9日	月			開講式 酪農ヘルパー事業 (ヘルパー全国協会) 13：00～14：30 オリエンテーション・実習農家案内 (ホクレン 清水) 14：30～17：00	
2	4月10日	火		搾乳器具の取り扱い方 (オリオンウエストファリアサージ松井克之) 9：00～12：00	コミュニケーションの重要性とそのあり方 (石田コンサルタント) 13：00～16：00 バーラー搾乳作業の実態 (ホクレン 鷹取) 16：00～17：00 1.0	
3	4月11日	水		乳牛 搾乳の基本 (ホクレン 鷹取) 9：00～12：00	実技指導 牛の接し方・ボデコンスコアの取り方 (ホクレン 土井) 13：00～15：00	◎
4	4月12日	木	◎	搾乳器具の洗浄消毒の基本 (理工協産 高橋) 9：00～10：30 牛舎内施設の消毒の基本と方法 (ホクレン 佐藤) 10：30～12：00	生乳の生産・処理・販売 (ホクレン北見支所 叶 勇司) 13：00～15：00	◎
5	4月13日	金	◎	牛の飼料計算と設計の基本 (ホクレンくみあい飼料 松田) 9：00～10：00 飼料計算と設計 (ホクレン 馬場) 10：00～11：00 搾乳牛の飼料給与と個体管理 (ホクレン 土井) 11：00～12：00	育成牛～乾乳牛の飼料給与と個体管理 (ホクレン 馬場) 13：00～15：00	◎
6	4月14日	土	◎	乳牛の繁殖生理と分娩介助 (ホクレン 佐藤) 9：00～10：30 乳牛の分娩介助・処置方法 (ホクレン 佐藤) 10：30～12：00	自習	
7	4月15日	日		自習	自習	
8	4月16日	月		乳質検査と乳質改善 (酪農検査協会網走事業所 佐藤) 9：00～12：00	酪農概論 (北海道農業協同組合中央会 北見支所 永井) 13：00～15：00	◎
9	4月17日	火	◎	実技指導 モクシの作り方とロープの扱い方 (ホクレン 北口) 9：00～12：00	乳牛の疾病および予防 (ホクレン 佐藤) 13：00～15：00	◎

10	4月18日	水	◎	粗飼料生産の基本 (ホクレン 道場) 9:00~12:00	実技指導 農機具の運転操作 (ホクレン 柄沢) 13:00~15:00	◎
11	4月19日	木	◎	専任ヘルパーからの実務報告 (北見ヘルパー組合 新井) 9:00~12:00	実技指導 毛焼きの仕方・サイレージの取り出し方 (ホクレン 馬場・野村他) 13:00~15:00 家畜排泄物と糞尿処理 (ホクレン 鷹取) 15:00~17:00	
12	4月20日	金		研修レポート及び理解度チェック (ヘルパー全国協会) 9:00~ 閉講式		

注) ◎=酪農家実習

ホクレン畜産技術実証センター（訓子府町）



ホクレン畜産技術実証センター玄関



ヘルパー実習に出動



第1回 セミナー風景



理解度チェック



25年度第1回受講者



24年度第3回閉講式

平成24年度第1回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会Aコース

場 所 ホクレン畜産技術実証センター)

期 間 平成24年4月9日～20日

参加人員 11名

感想文

1. K.N ホクレン農業協同組合連合会

今回行なわれたヘルパー研修では酪農についての様々な知識を得ることが出来ました。

まず、乳牛の搾乳についての見方や終了後の作業、またその作業の重要性についてのお話や、牛の餌である粗飼料生産についての講義等により基礎知識を得ることが出来ました。

その後の講義では、更に細かな飼料計算や設計をする方法、牛への接し方、ボデ・コンスコアの取り方を知り、疾病についてその予防法を知ることが出来ました。

搾乳に関しての知識は、ディッピングだけでなく、搾乳前の前搾りの意味や搾乳器具の洗浄法、生乳の生産・処理・販売はどのように行われているのか等の話を聞くことが出来ました。

コミュニケーションに関する講義もあり、ヘルパーとしての必要性を教えてくださいました。そして、実技の指導として様々な体験をさせていただきました。

それ以外にも実際にヘルパーとして働いている方から、失敗談や経験談を聞かせていただきました。その中には、ヘルパーをしてきての苦労や農家の方との触れ合い等、様々なことを聞きました。

これらのことから、ヘルパーとしての考え方や行動して行くための心構えを知ることが出来ました。

今回のヘルパー研修で学んだことを心に留め、これからの生活で用いていくように心がけていこうと思います。

2. S.T ホクレン農業協同組合連合会

酪農ヘルパー研修では、知らなかった事や初めて知った事が沢山ありました。

牛の管理や飼料管理、また搾乳の事など酪農の基本的な事を学ぶことが出来ました。酪農家によって管理の仕方や搾乳方法等違います。色々な管理方法など、私の中では、繁殖と飼養管理、飼料が自分のためになったと思います。

AIの一番最適な時間帯や飼料設計等、後継者として実家に就農した時に新たに繁殖を見直したり、受胎率の向上等長寿連産させることや飼料設計をやり、牛を大きくするしたり、乳量を増やしたり、どの飼料が一番牛にとって良いのか等、飼料の細かいところまでこだわっていきたいと思いました。

実証センターの研修生として、多くの事を学びたいと思います。最終目標として兄弟経営が夢です。実現させるために知識、そして臨機応変に対応出来る技術を取得していきたいと思います。一日一日を大切に生活していきたいです。

3. N.S ホクレン農業協同組合連合会

今回行なわれたヘルパー研修では、酪農についての様々なかつ基礎的なことを学ぶことが出来ました。

最初は、乳牛の搾乳についての見方や終了後の作業、またその作業についての重要性の話をされていました。また、牛に最低限必要な粗飼料の生産等を知ることが出来ました。餌について

は、牛に必要な粗飼料の量、微粉末の量等の計算の仕方等を教わり、他には、牛への接し方やボディコンディションスコアの見方、疾病について学び、それらの予防法等を教わりました。搾乳の話では、ポストディッピングだけではなく、搾乳前に行う前搾りの意味や、搾乳器具の洗浄に最も適した温度や時間等、ヘルパーにとってはとても大切である話を色々していただきました。

また、経営に関する話では班を作りいろんな話をして、ヘルパーと農家さんとのコミュニケーションについて、現在も活躍なさっている専任ヘルパーの人に話してもらいました。自分も昔、ヘルパーをしていたこともありましたが、今回のようなヘルパー講習を受けていませんでしたので、ヘルパーをしていた時にこのように学びたいと思いました。

今回の講習は自分にとってもいい経験となり、この経験を活かして酪農分野でさらに活躍したいと思いました。

4. B.D ホクレン農業協同組合連合会

酪農ヘルパー研修が4月9日～20日までありました。1日目は、酪農ヘルパーの開講式がありました。2日目はオリオンウェストファリアの松井さんから搾乳器具の取り扱い方を学びました。色々なライナーがあってびっくりしました。2日目の午前の講義の後、午後はコミュニケーションの重要性とそのあり方について教わりました。最初は講師のことについて紙に色々なことを書きました。そして色々あって2日目が終わりました。

3日目は、乳牛の搾乳の基本を教わり色々学びました。午後は、実技で牛の接し方とボディコンディションスコアの見方について教わりました。わかりづらかったけど、色々学べて良かったです。

4日目は洗浄、消毒の基本を学びました。午後は、生乳の生産・処理・販売について学びました。

6日目には乳牛の疾病及びその予防法について学びました。牛には色々な病気があることを学びました。

8日目は、酪農検査協会の方から、乳質検査と乳質改善について学びました。9日目は、実技でもくしの作り方とロープの扱い方を学びました。もくし作りは大変でした。でもだんだんと慣れて出来るようになりました。

今回の研修で、搾乳器具の扱い方や搾乳の基本、牛への接し方等いろいろなことを学ぶことが出来て良かったと思います。

5. M.T (有)ファム・エイ

私は中標津町にある(有)ファム・エイという大規模なヘルパー会社に4月に入社し、今回の研修に参加しました。入社すると仕事についていくのに必死になり、酪農について学ぶ機会、気力がなかなか無くなるので良かったと思います。また、他のヘルパーの方たちと接することがなかったので貴重な機会でした。ホクレンの研修センターでの座学は基本をやるといってもたまたま専門的な事が出てきたりして難しいところもありました。

コミュニケーションの授業は技術ではなく、印象についての講話でした。サービス業での印象の大切さを改めて感じました。印象が良いと悪いでは失敗の一つが大きく変わるのでこれから注意してやりたいと思います。

ミルカーの授業もあり、基礎から教えていただきました。以前にもミルカーの授業を受けたことはありましたが、知らない知識が多くありました。また、乳房を引っ張ったり、過搾乳はいけないと思いますが、ヘルパーで行った農家ではよく見かけます。してはいけない事もある、そんな事を繰り返すうちに何が悪い事かわからなくなったという先輩の話を聞いて、信頼さ

れ、認められたら、技術の普及の手伝いをしていきたいと思いました。実習でも2軒の農家に行きましたが、全く異なる多くの方法とこれが一番いいというのは一概に言えないのも実感しました。

機械の運転やサイレージの取出し、BCSの付け方の実習もありました。機械の運転の練習はあまりやる機会がないので有難かったです。また、サイレージの取出し方は本当に速くきれいで、これからの目標として見習いたいと思います。BCSは牛の肥満、健康を見極める技術なので、様々な所に行き、実践し比べてみるのも面白いと思いました。

今回、私が一番年下で不安な面もありました。経験や経歴が違う皆さんから様々な話を聞いて今後役に立つと思いました。皆さんの個性、尊敬すること、教えられる事が多くて本当に良かったと思います。また、機会があれば交流したいです。様々な人がいて、これからヘルパーをやる上で、やる気をもらいました。どこに行っても誰かの尊敬するところを見つけられ、常に誰かに尊敬の念を抱き、接していれば良いコミュニケーションが続けられると思いました。

これから会社に戻りますが、この気持ちとベテランヘルパーの授業のことを忘れず、新しく入ってくる人に何かを教えたり、伝えたり出来る人、また、農家を問わず色々な人に信頼され、助け合える人になれば成長出来たと実感出来ると思うので精進して、ゆくゆくはヘルパーの方が来やすい農家を目指したいです。

6. K.M 長万部町酪農ヘルパー利用組合

研修は初めてで戸惑いが多く、大変でした。講義の内容は時間の割に中身が多く、濃く、自分には把握しきれませんでした。少しずつですが理解していきたいと思います。酪農実習に入り、個々の酪農家の飼育方法、搾乳、施設の違い等あり、大変勉強になりました。ただ、これから酪農ヘルパーとして多くの酪農家にヘルパーに入りますが、そのニーズに対応しきれないかは不安です。

研修期間中に他の研修生から多くの経験談や失敗談を聞き、自信と勉強になりました。今回の研修を思い出しながら、ヘルパーの仕事をしていきたいと思います。

7. M.Y 北見町酪農ヘルパー利用組合

この研修を終えて多くの事を学びました。現場仕事だけでは学べることも限界があるので、これから現場に戻った時に授業で教えてもらった事を活かしていこうと思います。

後は、普段出会えない地方のヘルパーの人達とも色々な話が聞けたのも良かったと思います。今後もこの経験を活かして更に技術も向上していきたいと思います。

8. H.H 士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合

この度、参加させていただいた酪農ヘルパー研修会は、ヘルパーになって8カ月という私にとって、最初で最後の勉強するためのチャンスであったと言えます。日々、仕事に追われ、酪農に関する知識を補うために勉強したくてもなかなかまとまった時間を作ることが出来ないのがこの業種かと思います。

基本的な知識を学ぶことが出来たのはもちろん、普段、私の仕事場である士幌町以外の地域の酪農家さんに実習に行けたことはとても良い経験になりました。依頼のあった酪農家さんに行って、いかに早く流れに乗れるか、そこの酪農家さんとシンクロ出来るかを常に意識している私にとって、士幌町の各酪農家さんの仕事にも慣れ始め、正直少しの自信はありました。

しかし、実際、こちらの酪農家さんに行ってみると、初めて行なう搾乳形式、考え方に違い、己の技術、知識不足を改めて切に感じました。

また、今回の研修で一番の宝物となったのは同期の研修生という仲間達と出会えたことでした。

ここで学んだことを活かし、酪農家さんに「また、来てね！」と言ってもらえるような酪農ヘルパーになれるように日々精進していきたいと思います。

ありがとうございました。

9. S.K 佐呂間町酪農ヘルパー利用組合

この度、酪農ヘルパー専門技術員養成研修会に出席して思ったことがあります。

まず、基本が解ることです。今まで、何故、こういう作業をしてきたのだろう、何の意味があるのだろうと思っていたことが解り、とても勉強になりました。もくしの作り方等、初心者にとってはすごく良かったです。また、他の地域のヘルパーさんとの交流や情報交換が出来、とても参考になる事が多いと感じました。地域によってやり方の違いや、作業内容も違っていたりしてとても面白かったです。酪農家さんの実習では、ご主人との会話や情報交換等について教えていただき感謝しています。

実習と講義で大変でしたが、あっという間の2週間でした。また、こういう場があるのなら参加したいと思います。

10. U.D (有)ファム・エイ

今回研修に参加し、普段の現場では学ぶことの難しい基本や経験が出来、本当に良かったです。

まだまだ、覚える事はたくさんありますが、この貴重な経験をこの先、活かしていきたいと思っています。

この度はありがとうございました。

11. N.K 美深町酪農ヘルパー利用組合

最初、ヘルパー研修に行っていと事務局の方から言われた時、3回位聞き直しました。まさか、突然だったので自分が行くとは思っていませんでした。後で先輩方に聞いてみると、皆さん大半は行ったとのことでした。

先輩方が言うには、基本的なことが学べるので、知らないで仕事をするよりは理解して仕事をやった方が後々いいよ、と言ってくれました。

確かに自分は農業とは全く縁のないところから入りましたので、牛のことについては全く知識がなく、ただ言われたことを守って仕事についていました。あまり深く考えない性格なので、どうして？とか、なんで？とかあまり先輩に聞かなかったと思います。なので、研修に行けと言われた時、正直、自分で理解出来るのか不安でしたし、農業系の大学に行っておけばよかったと思いました。

そして、研修の場所は北見の方だと言われ、期間は2週間と言われ、遠くて、長くて具合が悪くなりました。でも、食事は三食付で風呂もあると聞いて少し体調が良くなりました。そんな感じでここ訓子府にある研修センターに来たわけです。

ここに来るに当たって、取りあえず、自分なりに何を知りたいかを考えてみると、第一に牛についてです。全く牛について知らないなので勉強出来たらいいな、と思い、そして次に農家さんを周っていて、やっぱり乳房炎の話が多く出ていたので、これについても学びたいと思って来ました。

実際、研修を受けて、牛の事について学び、乳房炎について学びました。自分は牛はかわいい

です、でもそれだけじゃ駄目なんだ、とつくづく思いました。

今回の研修で考えさせられたのは、牛のえさの管理、えさの作り方や意味、乾乳牛の意味、その管理、病気の種類やその対処法、乳房炎を出さない工夫や注意、牛のボディコンディションスコアの見方など、様々なことを学び、改めて酪農家さん達の大変な苦労を学びました。そして自分はこれからもっと大切に牛を扱い、酪農家さん達にもっと貢献出来るようなヘルパーになりたいと思いました。これからは勉強も頑張りたいです。

平成24年第2回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会

場 所 ホクレン畜産技術実証センター
期 間 平成24年10月15日～26日
参加人員 8名

感 想 文

1. K.K 阿武隈高原酪農ヘルパー利用組合

酪農ヘルパーの仕事を始めてから2か月が経過した後、北海道ホクレンでの研修の知らせがありました。道外出身が一人でしたので不安と希望を大きいものでした。

研修に来てから2日後には講義が開始し、3日後には酪農家での実習が開始しました。技術的には未経験でしたので内容は濃く、普段、疑問に感じていることや知らない技術等をとても新鮮に感じ取ることが出来、有意義な日々を過ごすことが出来ました。特に飼料技術や牛の監査は帰っても自信を持てるまでに成長することが出来ました。

寮では年長の部類に当たるので、他の寮生の模範となるよう心がけました。また、他のヘルパー仲間との交流では人間的に大きな刺激を受けることがありました。

研修期間は短く、まだ吸収したいことがありますが、ここで過ごした期間を糧に頑張っていこうと思います。

2. F.S (有)ファム・エイ

今回のヘルパー研修を終えた感想として、印象に残っているのは、酪農概論における経営シュミレーションである。

酪農経営者として黒字にするために何が必要かを考えていく上で普段農家様がどのような思いで経営をしているのか認識出来た。例えば収益を増やすには、乳量を上げたり、経費を削減する、という案が出た。その上で具体的な方法を挙げると、乳量を上げるには栄養価の高いエサ、定期的な削蹄、密飼いせず牛にとってストレスの少ない環境にすること、経費削減は繁殖成績の改善、乳房炎を防ぎ、牛を健康的に飼う、といった内容を詳しく学ぶことが出来た。

これらを踏まえた上で、これから私はどのような酪農ヘルパーになっていくべきなのかを考えた。

私が今まで考えていた酪農ヘルパーとは、ただ農家様の指示通りに働く、というのが仕事だと思っていたが、今回の研修を終えて、これから必要になってくるのは、農家様と同じ方向を見て働く姿勢だと考えた。何故なら、これからの酪農経営を考えていく上で担い手の不足、TPP問題といった農家様の存続を揺るがす問題が起きている。だからこそ、多様な問題や心配を一緒になって考えて上げることがこれからの酪農を陰から支える立役者になることが出来ると私は考えた。

それでは、具体的にどのようにして働くか、それは些細なことですが、「乳量はどうですか？

体細胞は増えていませんか？フィルターにぶつはついていませんか？」といった話をし、このヘルパーは考えて仕事をしてっていると農家様は思うことだろう。これからは、農家様を支えている、食品を生産しているという意識を持って仕事をし、現場の数をこなし、知識を得て、農家様に料金以上の技術を提供出来るヘルパーになります。

3. N.A 幌延町酪農ヘルパー利用組合

この12日間のヘルパー研修で最も印象に残っている内容の一つが「コミュニケーションの重要性とそのあり方」です。他の講義とはジャンルが違い、酪農ヘルパーに限らず、大抵の職業に通じる内容で農家さんにヘルパーとしていく上で最も基本的なことであり、最も大切な内容であると感じ、酪農の仕事をする以前に長く接客業をしていた私に「酪農ヘルパーはサービス業である」という言葉は日々の業務へのモチベーションを改めて強く再認識させるものになりました。

「乳牛の繁殖生理と分娩」や飼料、疾病の講義ではもちろん全く知らないことも多かったが、それ以上になんとかアバウトに知っているつもりでいたことを明確にしてもらったと同時に、今までの認識の甘さや知識の無さを痛感させられるものでした。

北見ヘルパー組合の新井さんのお話では、ヘルパーの先輩として研修生が今までにした大きな失敗体験を上げ、そのほとんどの原因が「引継ぎ」と「確認」に問題があったことを実体験も交えて話して下さり、その2点がこの仕事をする上でどれほど大切かを改めて知りました。

酪農ヘルパーになり約半年が過ぎましたが、まだまだ先輩方にも農家さんにも指導していただいたり、ご迷惑をおかけしっぱなしですが、今回学んだ知識を足がかりに「確認」と「コミュニケーション」という言葉を肝に銘じ、農家さんにも酪農ヘルパーの仲間にも信頼される一人前のヘルパーになるべく明日からの業務を頑張りたいです。

今回の研修の講義の先生方や実習先の農家さん、そして一緒に頑張った研修生の皆さんのおかげで大変有意義なものになり、感謝しています。

4. S.T 音別町酪農ヘルパー利用組合

第2回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会を振り返ってみると、まず、最初に思うことは「あっ」と言う間に終わってしまったということです。12日間という期間は参加する前は「長いな」と思っていたのですが、毎日が充実していたので気付かないうちに時間が過ぎていった感じです。

学科においては、全く知らなかったこと、知ったつもりでいたが実は理解出来ていなかったことを学ぶことが出来ました。また、知っていたことも再確認、再認識出来て良かったと思います。

個人的には「乳牛の疾病及びその予防」をもっと深く、そして広く学ぶことが出来たら良かったです。しかし、教科書をいただいたので自分で出来るだけ勉強していこうと思います。

実技においては、「モクシの作り方とロープの扱い方」はモクシを作るなんて新鮮で楽しかったですし、別のロープの結び方をもっと教えてもらいたかったです。また「農器具の運転操作」は別の作業もやってみたかったですし、ミニタイヤショベルだけでなくトラクターの練習もしたかったです。

酪農実習においては、お忙しい中、私たちのために多くの時間を割き、懇切丁寧に指導して下さいました各農家の方々には感謝しております。出来れば、もっと長く一カ所の農家で働き、もっと細かいところまで吸収したかったという気持ちと、もっとたくさんの農家さんへ行って様々なスタイルの酪農を体験してみたかったという気持ちが同居しています。

寮の施設も従業員の方々の配慮も行き届いており、不自由なく生活することが出来ました。そ

して何よりこの研修を無事に終わらすことが出来たのは、今回の研修生の仲間と出会え、一緒に学ぶことが出来たからです。

研修で学んだことをこれからの酪農ヘルパーという仕事に活かしていこうと思います。ありがとうございました。

5. F.S 幌延町酪農ヘルパー利用組合

今回の酪農ヘルパー養成研修会において、私はいろいろなことを学び、思い返し、同じ酪農ヘルパーとして働く新たな仲間が出来ました。

まず、私にとっては久々となる座学が始まりました。知ってはいるけど理屈は説明出来ないこと、新たに知り得たこと等、知識として酪農の仕事やヘルパーの仕事について学ぶことが出来ました。

次に実習作業が始まりました。やはり、いつも仕事で思うように、各農家によって作業手順や農家さんの考え方はまるで違います。しかし、それぞれのやり方や考え方はその場では正しいのだと思いました。何故なら、今回お世話になった農家さんのやり方はだいぶ異なっていたにも関わらず、どちらも牛の毛づやはきれいだし、ストレスが溜まっている様にも見えなかったからです。もし、自分の考えと違っていても、各農家によって正しいということが変わってくることを心がけ、それぞれにうまく柔軟に対応していくことが大事なのだと改めて気付くことが出来ました。

これからの抱負として、もっと多くのことを学ぶことで自分の力にし、もっと多くの農家を回ることによっていろいろな考え方を知り、コミュニケーションを大事にして、更に酪農ヘルパーとしての実力をつけることで、農家の方や牛たち、同じヘルパー仲間にも信頼して仕事を任されるような人材になりたいと思いました。

これからも目標は高く、頑張っていきたいと思いました。

6. Y.T 中頓別町酪農ヘルパー利用組合

2週間を振り返って、初めは体調を崩してしまい、皆さんに心配をかけてしまいました。でも、研修が続けられて良かったです。

私は、高校卒業して、今年の4月から酪農ヘルパーになったので技術や知識が無く、仕事としてもわからない事や農家さんと上手くコミュニケーションが取れず不安になることがあります。

今回、この研修を受けて、搾乳の基礎や機械の扱い方等、一から教えてもらいました。わからなかった事や気になっていた事がわかったので良かったです。普段、自分がやっているやり方と違っていたり、こういうやり方もあるんだな、と勉強になりました。

いろんな所から来ているヘルパーさんと意見交換したり、作業をやっているの失敗談等話していて、自分だけじゃないんだな、と思いました。交流が出来て、今後も意見交換出来たらいいな、と思いました。

酪農ヘルパーは、いろんな農家さんに行って、一つ一つ農家さんによってやり方が違うけど、搾乳の基本等是一緒だと思うので、作業する時や作業が終わった時は必ず確認をする。

今回の研修で学んだことを活かして、中頓別に帰った時に少しでも酪農家さんに信頼してもらえるようにコミュニケーションを取って、酪農家さんに安心して任せてもらえる酪農ヘルパーになりたいです。

7. O.T 津別町酪農ヘルパー組合

昨年の11月から、津別町の酪農ヘルパーになって約1年になります。今でも、緊張感と責任感

で、前日に眠れない時があったり、農家の人に嫌な思いをさせなかったらどうかと不安になることもたくさんあります。

そんな私に比べて、津別の農家のやり方を全て把握し、機械や道具、飼料が異なっても毎日臨機応変に仕事をスムーズにこなしていく先輩をみると、とても尊敬します。私は、まだまだ先輩にカバーしてもらおう所がたくさんあり、迷惑をかけてしまっています。

そんな悩みや不安を抱えながら、日々の仕事に追われていた中で、今回の研修ではたくさん学びました。基礎はもちろんですが、実際、仕事で疑問を感じていた事が解決しました。

また、ヘルパーはサービス業だということも学びました。コミュニケーションの大切さ、返事やあいさつ、言葉使い、礼儀等は人として当り前のことですが、改めて重要なんだと感じました。農家に信用してもらうためには、まず、ここからだと教わりました。

農家実習では、農家の方々、従業員の方々にとても親切にしてもらい感謝しています。津別町にはないものを経験出来てよかったです。

ともに12日間の研修を受けた他の地域のヘルパーとの交流も出来ました。津別に帰ったら、今回身に付けたことを活かして、良い仕事が出来よう努力します。そのためには確認をしっかりとって、ミスや事故を起こさないように日々の仕事をしっかりとこなしていきたいと思います。

8. A.K 天塩町農業協同組合

僕は、今回の酪農ヘルパー研修で多くの事を学ばせてもらいました。

牛の生態から、飼育方法や牛乳、搾乳器具等、わかっていたつもりだったのですが、今一度教わることによって新しく知った事、忘れていた事を再度学ぶことが出来ました。今までは何となくしかわかっていなかった事も数多くありましたが、正しい知識を得ることが出来ました。

それに他のヘルパーの人達と交流することで、他の地域の農家の人達やヘルパーのいろいろな話を聞くことが出来ました。

色々な作業方法や失敗談等たくさん話を聞け、普段の仕事では知ることの出来ないような話も聞け、大変勉強になりました。

今回の研修で多くの事を知り、学ぶことが出来、これからヘルパーの仕事をしていく上で活かしていけるように、また、今回出会ったヘルパーの人達とも交流を続けていきたいと思っています。



理解度チェック開始



セミナー風景



酪農ヘルパー認定証授与



左は清水課長、右は山内センター長

平成24年第3回酪農ヘルパー専門技術員養成研修会

場 所 ホクレン畜産技術実証センター
期 間 平成24年11月5日～16日
参加人員 8名

感想文

1. S.O 士幌町酪農ヘルパー利用組合

2週間という長い時間をいただき、貴重な研修を受けることが出来、うれしく感じております。

ヘルパーとして活動している期間も1ヵ月と短く、知識が少ない状況での受講はどれも今後のヘルパー人生の大切な糧となるものばかりでした。

特に印象に残っているのは、酪農概論の講習内で行われたディスカッションです。テーマは「牧場の黒字を伸ばすためには」というものでしたが、今までヘルパーとして仕事をする上で、牧場は作業する場という気持ちが強かったと思います。そんな中、このようなテーマでもちょっと視点を変えて考えてみると、今までは「何でそんな事言うの」と思っていた酪農家さんの言葉も、実はもっとこうしたいという熱意の表れだったのかな、と感ずることが出来ました。これから、実際に酪農家さんへ行った際にもこの経験を踏まえてコミュニケーションをとっていききたいと思います。

酪農家実習では、普段の作業中では気付かないことも細かく指導していただき、搾乳一つとってもすごく気を使っていることを再確認出来ました。搾乳時に指導していただいた中で、搾乳終わりの見極めということを重点的に指導してもらい、以前からわからない時があったりしたので、横についてもらい教えていただいたのが有難く、これからは自信を持って搾乳出来るようになりました。

当初は、2週間は長いなあと思っておりましたが、今思い返すと毎日が充実した時間を過ごすことが出来、他の地域のヘルパーさんとの情報交換からも多くの事を気付かせてもらい、あっという間の2週間でした。

ここで学んだことを活かし、酪農家さんから信頼されるヘルパーを目指して頑張ります。ありがとうございました。

2. M.T 宗谷南酪農ヘルパー利用組合

この酪農ヘルパー専門技術員養成研修会に参加して、私は色々なことを学びました。

実習では、牛舎内の仕事をやらせてもらい、復習にもなり、いい経験になりました。仕事の内容としてはいつもと同じ事をしているのですが、研修で行かされるだけあり、細かい違いに驚かされました。中には初めてするやり方もあり、勉強になりました。

学科では、搾乳から分娩、飼料、粗飼料、疾病、育成と乾乳、乳質等々他にもまだありますが、たくさんの授業がありました。中でも私が興味を持ったのが分娩についてです。

このヘルパーという仕事をやっている限り、やはり分娩は避けて通れません。他にも大事なことは一杯ありますが私はこの生命の誕生に惹かれました。

まずは、発情を発見するところから始まり、人工授精、妊娠、分娩と色々なことがあります。発情の発見の仕方や分娩の徴候等は仕事に役立つことがたくさんありました。特に分娩の兆候はこんなにたくさんあると思いませんでした。これらのことをしっかり覚えて、今後行くことになる酪農家さん達のところで役に立てるよう頑張りたいと思います。

3. Y.H 訓子府町酪農ヘルパー利用組合

今回の研修を終えて、まだ経験の少ない自分にとって知らないことが多かったので勉強になりました。

その中で、特に印象に残っていることは、乳牛の繁殖生理というものです。雌牛の性周期は平均約21日で、老齢の牛は若い牛より周期が長くなる傾向にあったり、牛は周年繁殖動物で一年を通じて性周期を繰り返すことを勉強しました。牛の妊娠期間は280日で分娩予定日計算方法も教えていただきました。

次に印象に残っていることは、泌乳と搾乳です。その中で、オキシトシンについてですが、下垂体から分泌されるホルモンで、オキシトシンの働きが良ければスムーズな搾乳が可能になり、また、オキシトシンの持続時間は2分から10分程度なので、乳房を拭き始めてから30秒から1分で搾り始めることが大事ということを教えていただきました。

今回の研修で学んだことを今後活かして、酪農家さんから安心して任せられるような酪農ヘルパーになれるよう努力していこうと思います。

4. N.N 中頓別町酪農ヘルパー利用組合

この2週間を振り返ってみると、講義や実習でたくさんの事を学べた2週間でした。講義では、普段のヘルパーで扱っている餌や搾乳器具の使い方、モクシの作り方、専任ヘルパーさんのお話等自分のためになるものばかりでした。実習では、2ヵ所の酪農家さんへ行きました。最初の農

家さんでは、和牛の餌やり、育成牛の餌やり、子牛の哺乳、搾乳をやらせていただきました。搾乳では、初めてお尻の方からミルクカーをかけたためか普段やっている作業なのにちょっと恐怖感がありました。2ヵ所目では、餌やりと搾乳をやらせていただきました。餌やりはデントコーンや配合、カルシウム、糖蜜を上げ、普段の作業で扱ったことのない餌を扱うことが出来ました。搾乳では、初めてプレディッピングをやりました。ここでは、子牛が生まれそうなのが1頭いて、出産の立ち会いをしたかったのですが、午前中で講義が始まる頃に生まれると言われて、とても残念でしたが、生まれそうな牛を見つけ、農家さんに報告することが出来たので良かったと思います。

最後に今回一緒に研修を受けたヘルパーさんと交流出来て本当に良い経験になりました。今後は、この2週間で学んだこと、そして一緒に研修をやった方達にアドバイスをもらったことを活かして頑張りたいです。

5. N.H 浜頓別酪農ヘルパー利用組合

今回の研修を通じて、ヘルパーの必要性和ヘルパーには技術や知識等の様々な事が必要になると感じました。基本的な知識はもちろん専門的な知識の多さに驚きました。専門的な事は仕事を通じてだけではわからない事、酪農家さんでも教えてはくれない事等たくさん学びました。

酪農家さんはヘルパーに自分の牛舎の全てを任せることになります。その時に酪農家さんが自分の牛舎を任せられる技術、知識を持って、なおかつ、酪農家さんのニーズに応えられるヘルパーを必要としていることの重要性に気が付きました。酪農実習に行き、ニーズに応える重要性を再度確認することも出来ました。ニーズに応えることに関して大切になってくるのは、ヘルパーと酪農家さんとのコミュニケーションだと思いました。酪農家さんと話をし、仕事の流れや理由、注意点等を確認すること、あいさつや返事、身だしなみ等によって印象が大きく左右されることの大切さを実感しました。

今後、ヘルパーを続けていく中で、仕事内容はもちろん、酪農家さんのニーズに応えられるヘルパー、そして酪農家さんに好かれるヘルパーになれるよう、ヘルパー同士、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

6. Y.K 留辺蘂町酪農ヘルパー利用組合

今回、酪農ヘルパー技術員養成研修に参加させていただき、乳牛について様々なことを勉強しました。

酪農ヘルパーとしての経験が少ない私には知らなかった事が多く、とても驚きました。特に、乳牛のオキシトシンとアドレナリンについてと、繁殖生理と分娩についての講義が印象に残っています。

オキシトシンとアドレナリンは乳量に大きく関係しており、乳牛に対しての接し方やいい環境づくりが大切だということを学びました。

繁殖生理と分娩については、乳牛の発情周期や徴候、分娩時の介助方法等を学び、これから仕事をしていく中で分娩に立ち会った際には、この講義で学んだ経験を活かしていきたいです。

今回の研修で講習や実習を受け、乳牛に関する様々な事を学ぶことが出来ました。身に付けた知識を今後の仕事に活かし、酪農家の方が安心して作業を任せられる酪農ヘルパーを目指して日々努力していきたいです。

7. Z.N ホクレン農業協同組合連合会

今回、酪農ヘルパーの方々と一緒に初任者研修を受講させていただき、大変貴重な経験をする事が出来ました。

まず、酪農に関する基礎的な知識について改めて学ぶことが出来て良かったです。ボディコンディションスコアの見方や発情の徴候、疾病の伴う症状といった牛を観察する際に役立つ知識から、育成期、乾乳期等の生育ステージに合った飼養管理のポイントや、牧草やとうもろこしといった粗飼料についてまで幅広く復習することが出来ました。また、ミルカーを始めとする搾乳機器の扱い方や酪農洗剤についてはほとんど知識がなかったのでこの機会に学ぶことが出来て良かったです。

次に、酪農家実習という初めての経験をさせていただきました。実習を通して、搾乳やエサやりといった基本的な作業について実践的に学ぶことが出来ましたし、普段の業務中よりもじっくりと牛の様子を観察することが出来、大変勉強になりました。また、1軒だけでなく、2軒の酪農家で実習を行なうことが出来、各農家によって飼養管理の形態が全く異なることや、一つ一つの作業に対する考え方・こだわりがあることを肌で感じました。

最後にヘルパーの方々と交流を持つことが出来て良かったです。それぞれの方が担当されている地域の酪農事情や実務の中での体験談等、興味深いお話を聞くことが出来ました。

今回の研修で学んだこと、感じたことを無駄にすることなく、今後の業務推進に活かしていきたいです。特に、農家ごとに考え方や大事にしていることが全く違うということに留意した上で、農家とコミュニケーションを図るよう、意識していきたいです。

8. T.Y ホクレン農業協同組合連合会

今回の研修は「ヘルパー研修」ということで、自分達向けの研修という訳ではありませんでしたが、今までの振り返り、そして今後の成長のために大いに役立つものであったと思います。

6月に帯広支所の畜産生産課配属となり、仕事を理解する時間もなく1ヵ月の新人研修を迎えました。非常に多くのことを学んだ新人研修ではありませんが、講義で教えていただいたことを一つ一つ丁寧に覚える余裕も正直ありませんでした。

新人研修終了後、帯広支所へと戻り、実際に牧場に入っていく中で、新人研修時に教わったことが「ああ、これがそうなのか」と思うことも多々ありました。

しかしながら、忘れてしまっている部分も多く、ヘルパー研修でまた、基礎から勉強することが出来、大変有難かったです。また、新人心研修では実証センター内の牧場での作業でしたが、今回は一般の酪農家さんの牧場にヘルパーとして作業をさせていただきました。牧場のお父さんや母さん、従業員さんと同じ作業をしながら、酪農の大変さ、そして楽しさを改めて感じました。

また、コミュニケーションの重要性という点で、推進の際、真面目一本にエサの話をするのではなくて砕けた話もしつつ、まず、自分を好きになってもらうこと、エサの前に自分を売ることが大事だと思いました。

今回、一緒に研修を受けたヘルパーの方が「こうしてお金を出して研修に送り出してくれたヘルパー組合に感謝している」と話されていましたが、自分も同じ気持ちで、この研修をこれからの業務にしっかり活かしていきたいと思っています。

6 平成24年度酪農ヘルパー養成研修（初任者研修）

場 所 北海道立総合研究機構根釧農業試験場他

期 間 平成24年5月28日～6月1日

参加人員 8名

〈平成24年度 酪農ヘルパー養成研修（初任者研修（2））カリキュラム（0522最終案）〉

場所：北海道立総合研究機構 根釧農業試験場 ほかに

	1日目 5月28日（月）	2日目 5月29日（火）	3日目 5月30日（水）	4日目 5月31日（木）	5日目 6月1日（金）
9 00		③牧草の種類と見分け方 9：00～10：30 根釧農試 牧野研究主任	⑧搾乳見学と乳牛の扱い方 9：00～10：30 根釧農試 村上主任普及指導員		⑦乳牛（搾乳牛）の飼養管理 9：00～10：30 根釧農試 原 研究主幹
10：00				⑬コミュニケーションマナー 9：00～12：00 石田コンサルティングオフィス 石田邦雄代表	理解度チェック 10：00～11：10
11 00		④乳牛検定の目的と活用方法 10：30～12：00 根室生産連 生産振興課 瀬野職員	⑨土作りとふん尿の有効活用 10：30～12：00 根釧農試 松本主査		閉講式11：10～ 昼食・解散11：30
12：00		昼食	昼食	昼食	
13：00	受付・昼食 (12：30～13：30) 開講式・オリエンテーション 13：30～14：00	⑤サイレージの作り方 13：00～14：30 根釧農試 大越 研究主任	⑩乳牛の繁殖管理・分娩対応 13：00～14：00 根釧農試 古山 研究職員	⑭疾病の実態と緊急時の対応 13：00～14：30 根室地区NOSAI 中尾獣医師	
14：00	①酪農ヘルパー事業について 14：00～15：30 酪農ヘルパー全国協会 沼崎部長		⑪搾乳方法と機器 14：00～15：30 根釧農試 関口 主査	⑮哺育・育成牛の飼養管理 14：30～16：00 根釧農試 大坂 研究主幹	
15：00		⑥生乳の安全・安心対策 14：30～15：30 ホクレン中標津支所 酪農課 黒政係長			
16：00	②酪農を巡る情勢について 15：30～16：30 JA北海道中央会 根釧支所 千葉職員	⑦乳牛の泌乳生理および主な病気 15：30～17：00 根釧農試 松井 主査	⑫雪印メグミルクなかしべつ工場見学 15：30～17：00 案内：JA北海道中央会根釧支所	⑯意見交換会 16：00～17：00 酪農ヘルパー全国協会	
17：00	懇親会（17：30～）				

地方独立行政法人北海道立総合研究機構根釧農業試験場（中標津町）



根釧農業試験場



セミナー風景



セミナー振興の中央小山田講師



試験場講師による講義



研修生の宿舎（中標津町）

平成24年度酪農ヘルパー養成研修（初任者研修②）

場 所 北海道立総合研究機構根釧農業試験場他
期 間 平成24年5月28日～6月1日
参加人員 8名

感 想 文

1. T.Y 浜中町酪農ヘルパー組合

今回この酪農ヘルパー研修を受講して、今までわからなかったことやわかっていたことの復習等両方学べました。

特に、乳牛の繁殖管理、分娩管理、人工授精、発情の見極めはもともと知りたかった事なので本当に参加してよかったと思いました。

この研修で学んだことをヘルパーの現場に戻ってからぜひ活用していきたいと思います。

今回はありがとうございました。

2. A.C 浜中町酪農ヘルパー組合

今回、初任者研修を受講させていただきました。乳牛の泌乳生理や疾病、繁殖管理、分娩対応、飼育管理等の牛に関する講習や牧草の種類、バンカーサイロの作り方、土作り等の基礎から知ることが出来ました。

コミュニケーションマナーでは、挨拶や態度等、心のあり方をしっかり行動に移して、信頼関係を築いていく大切さを学びました。

また、牧草畑の見学、根釧農試の牛舎にて搾乳見学、メグミルク工場の見学等、盛りだくさんの研修内容で大変勉強になりました。

この研修をヘルパー業務に活かしていけるよう、責任感を持って作業に当たりたいと思います。

今回このような機会を作ってください、ありがとうございました。

3. Y.T (有)ファム・エイ

今回、酪農ヘルパーの研修を受けて、酪農に関して必要不可欠な知識を再確認出来たと思いました。そして、私個人的にはコミュニケーションのところは一番この仕事に従事するにあたって重要だと感じていたのもっと講義を聞いてみたいと思いました。

研修を通して学んだことを生かすも殺すも己自身。一社会人としてどうあるべきか、より根源的なところも追及されてきますが、同じ局面を迎え、乗り越えようとしている仲間も近くにいると強く感じました。現場に戻ってもより精進していけるよう努めていきます。

五日間、ご多忙の中、講義を行なっていただいた先生方、スタッフの方、この場をお借りしまして感謝の意を込め、ありがとうございました。

4. M.M JA中春別酪農ヘルパー利用組合

私は五日間の研修を受けてたくさんの知識を得ることが出来ました。酪農や乳牛については勿論、ヘルパーとして仕事をこなすに当たり、必要となる専門的な事を多く学ぶことが出来ました。そして、ヘルパーとしてのあり方、仕事の取り組み方も学び、サービスを提供する仕事だということを改めて感じました。

また、他の地域のヘルパーさん達と交流が出来て、先輩からは聞けない話や同じ悩み等を話すことが出来てとても良い経験になりました。

これからの仕事では、この五日間で学んだたくさんの知識を活かし、また、目的を持った作業が出来るように日々努力していきたいと思いました。まだまだ新人の私達には、この研修はとても意味があり、農家さんや組合にとってもよいものだと思います。五日間、本当にありがとうございました。

5. M.F JA中春別酪農ヘルパー利用組合

私は、今回のヘルパー養成研修ではとても良い経験が出来たと感じています。

ヘルパーに就職するまでは、四年間北海道立農業大学校で酪農に関する基本的な知識を勉強してきました。なので、講義の内容は良い復習として改めて学ぶことがたくさんありました。その他にいろいろな所から集まってきたヘルパーの仲間達と交流を深める良い機会になったと感じています。

現在、二か月の職員研修を終えて、これからは見習いとしてヘルパーの先輩方に付き添い、様々な酪農のスタイル、作業の手順や技術を教わることと思います。そんな中で、自分の考え方や作業方法を持っていたても、酪農家あつての酪農ヘルパーだということを忘れずに、各々の酪農家さんに合わせた作業をこなせる酪農ヘルパーになりたいと思いました。

6. I.Y 標茶営農サポートセンター

この研修では、まだまだ知らない知識をたくさん知りました。ヘルパーの仕事に関してあまり使わない知識もありましたが、これから新しく酪農をやっていく人達にとってはいい勉強になったと思う。

根釧農試の牛舎を見学してみて、パーラーとつなぎも両方やっているのはすごいと思った。そして雪印メグミルク中標津工場の見学では、実際にチーズを作っている機械を見てびっくりしました。機械は大きいし、チーズを作るのにこんな手間を掛けるんだとなあと感じました。

コミュニケーションマナーで、確かに酪農ヘルパーにはいろいろな農家さんとのコミュニケーションは必要だと思う。農家さんと仲良くなれば損はない。

4泊5日の研修は全部自分の身になった。研修で学んだことを活かしてこれからも酪農ヘルパーを頑張っていきます。

7. M.K 白糠町酪農ヘルパー利用組合

私は、この研修で、初めは牛のことだし、だいたい分かっているつもりでした。でも、一つ一つの講義を聞いているとわからないことがたくさんあり、牛ってこんなに奥が深く、面白いなどと改めて感じました。

私は、ヘルパーという仕事がこんなにもやりがいがあり、人と人のコミュニケーションが大切な仕事だと改めて感じさせられる研修をやってくれたことをありがたく思っています。

五日間という短い時間の中、いろんな分野の先生に忙しい中講義をしていただいたことも、とても感謝しています。

これからいろんな農家さんを回っていくと思います。この研修で学んだことを活かし、農家さんにヘルパーに来てもらってよかったと、そしてヘルパー員として私一人ではなく、もっともっとヘルパー員全員の意識が、牛を農家さんから預っているんだということを自覚して、責務を全うしていきたいと考えています。失敗や悩み等もこれからいろいろ出てくると思いますが、この研修で学んだことを土台に頑張っていきたいと思います。

8・I.T (有)ファム・エイ

今回の研修は私にとって大変有意義なものになったと思います。知らなかった知識は講師の方々の丁寧な説明を通して理解することが出来ましたし、元から知っていた部分に関しても再度確認をするつもりで聞くことが出来たからです。

明日からは通常の業務に戻り、多くの農家さんを回ることになります。今回の講義を通常の業務の中で活かすことを勿論のこと、それ以外にも部分的には古い知識や間違った知識に頼ったまま非効率的な経営をされている農家さんもあると思います。そういった農家さんに行くことがあれば単に与えられた仕事をするだけでなく、あまり押しつけがましくならない程度に教わった内容を広めていけたらと思います。

短い期間でしたがありがとうございました。

7 平成24年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修

場 所 公益財団法人中国四国酪農大学校

期 間 平成24年9月3日～14日

参加人員 8名

〈酪農ヘルパー研修に係るカリキュラムと講師構成〉

主たる研修項目	主な研修項目	具体本校講座	講義	実習	講師名	備考
酪農ヘルパー事業関係			3			
	酪農ヘルパー事業	(1) 養成研修の目的と内容	開校式	1	広金	
		(2) 酪農ヘルパー事業概要	ヘルパー概論 (1)	1	ヘルパー協会	
		(3) 酪農ヘルパーの実務	ヘルパー概論 (2)	1	ヘルパー協会	
我が国の酪農の概要			3			
		(1) 生産構造と酪農経営	畜産概論 (1)	1	池田	
		(2) 関連諸制度	畜産概論 (2)	1	池田	
		(3) 生乳の流通	畜産概論 (3)	1	池田	
飼養管理演習			3			
		(1) とうらくの作り方	飼養管理演習 (1)	1.5	長網	
		(2) ロープの結び方	飼養管理演習 (2)	1.5	長網	
搾乳			5	40		
		(1) 泌乳生理	泌乳生理 (1)	3	村田	
		(2) 搾乳作業及び衛生管理	搾乳理論 (1)	1	村田	
		(3) ミルカーの取扱	搾乳理論 (2)	1	村田	
		牧場実習	各牧場搾乳実習		40 各牧場	
生乳の衛生管理・加工処理			2			
		(1) 乳質検査	生乳の衛生管理 (1)	1	西村	
		(2) 生乳の衛生管理	生乳の衛生管理 (2)	0.5	西村	
		(3) 乳肉の加工処理	生乳の衛生管理 (3)	0.5	西村	
飼育管理			7	5		
		(1) 乳牛の生理	飼養管理 (1)	3	芦田	
		(2) 飼料計算・給与	飼料計算	2	山田	
		(3) 哺育、育成、経産の管理	飼養管理 (2)	2	西村	
		牧場実習		5		
自給飼料生産			2			
		(1) 自給飼料生産の意義	自給飼料 (1)	1	長網	
		(2) 主な自給飼料	自給飼料 (2)	1	長網	
酪農器具機械関係						
	農機具の取扱	(1) 関連農機具の安全操作・運転	機械演習第2牧場	6	長網	
		トラクター		3		
		ホイルローダー・フォークリフト				
	点検整備	(2) トラクター		3		
		ホイルローダー・フォークリフト				
繁殖管理			5	2		
		(1) 繁殖生理	家畜繁殖	3	関	
		(2) 分娩と介助	家畜繁殖 (分娩と介助)	2	関	
			助産技術演習		2 各牧場	
ふん尿処理			3			
		(1) 適正処理の必要性	糞尿処理 (1)	1.5	広金	
		(2) 処理方法	糞尿処理 (2)	1.5	広金	
		その他レポート作成等		1		(研修施設)
			40	47		



講義風景



搾乳施設の看板



牧場のサイロ



牛舎入り口の消毒槽を通して

平成24年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修

場 所 公益財団法人中国四国酪農大学校
期 間 平成24年9月3日～14日
参加人員 8名

感 想 文

1. I.K 奥出雲酪農組合

ヘルパー研修に大変勉強になりました。改めて乳牛を飼うというのは高等な技術が要り、まだまだ勉強・経験不足だと感じました。

①講習

農家さん達はいろいろな飼い方をするので何が本当かよくわからなくなりますが（もちろん、正解はないのかも知れませんが）、改めて搾乳方法等、「あ、これで良かったんだ」と思えました。これは他の参加者ヘルパーさん達との毎日の生活でもいろいろと話を聞けてやっぱり確立された技術もあるんだなと思いました。

②蒜山地域（岡山）における酪農について

島根がどちらかという田舎で業界的には遅れているのかも知れませんが（少なくとも中国地方においては特にそうですね）、自分が回る農家との差（経営規模、技術レベル、牛舎や搾乳機

器)があり過ぎて少し悲しいような、けれど、この難しい世界でも希望があるのかなと思うような複雑な思いを感じました。やはり昔から酪農の先進地であり、ジャージーブランドで成功してきた蒜山だからこそ、親の作った基盤から新技術を取り入れ、更に経営を拡大出来る。島根では到底出来ないように思います。

正直、搾乳頭数50頭前後でパーラーとか考えられなかったけれど、きっとこれだけの産地だから、昔から農家さんの知識があったり、組合がしっかりしていたり、技術指導もしっかりしていたのかなと思います。とにかく、「農家の単位でこのレベルが普通なんてすごい。こんな所があるのか!」という気持ちです。北海道とか東北とか愛知とかもそうなんではないでしょうか? 島根、大丈夫かな、と不安になりました(けれど、ヘルパーさん達に聞いているとやはりいろんな農家さんがいますね)。

③これから

これから自分が酪農をどのようにどれだけ続けるかは未定だし、原油高、飼料高、エネルギー問題、異常気象ととてつもなく、問題だらけの農業ですが、やりがいのある仕事だと思っています。牛と農家に優しく頑張ろうと思いました。

2. N.A おかやま酪農協同組合

今回の研修を通じて教わったことがあります。講義で教わったことはほとんどが酪農大学校在学中に受講していたのでわかっているつもりでいましたが、思いのほか忘れていて、この研修が無ければ基本的な知識を知らないまま、現場に出て仕事をしていると思います。

農家研修では、2~3戸の酪農家さんに行かせていただきました。そこで思った事は、私たちの地区でも同じですが、ミルカーのメーカー、機種が違ったり、管理者(畜主)が違ったり、飼料給与方法が分離給与とTMRであるといった相違点があることを改めて感じました。

また、これから現場で仕事をする時は、牛に優しく、牛床はきれいに、飼槽を歩く時には必ず長靴を洗う等の基本的なことを実施していきたいと思います。

最後になりましたが、今回のヘルパー研修で、酪農家さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。

3. S.M 筑豊地区酪農ヘルパー利用組合

今回の酪農ヘルパー養成研修に参加して、酪農未経験の自分には習うことの全てが初めてのことで大変有意義な研修でした。今まで現場でしてきたことが点と点がつながっていくように感じられ、解らなかった事や知らなかった事等様々な事を知ることが出来ました。

酪農家さんの実習では、平岡さん、亀山さん夫妻には大変お世話になりました。ありがとうございました。

これから福岡へ帰って、酪農ヘルパーとして仕事をするわけですが、今回の研修で習った事やこれから現場で経験して行くこと等を活かして、早く一人前の酪農ヘルパーになれるように努力していきたいと思います。

初心を忘れることなく、組合員の皆さんの役に立てる酪農ヘルパーを目指して頑張ります。

4. M.T 中遠酪農ヘルパー

私は酪農ヘルパーを始めて4か月になります。しかし、学校や今まで畜産事業で働いたことがなく、常に現場では何でだろうと考えることが多々ありました。今回、この酪農ヘルパー専門技術員養成研修に参加させていただき、今まで4ヵ月間、先輩ヘルパーに教えていただいた作業一つ一つの意味を更に詳しく、その理由まで知ることが出来、今後のヘルパーを行なう上でのスキ

ルアップになりました。また授業以外で、実際農家さんでの体験研修も、今後の仕事の糧となりました。

私の勤務する中遠地区にはない型のパーラーでの搾乳や、ジャージー種の搾乳を地元蒜山の農家さんと作業することで、今後、もし静岡で同じ様式の牛舎（パーラー）出来た時等の対応に役立つと考えました。

今回の研修を終え、この研修に参加させていただいた中遠酪農ヘルパーの皆様、分かりやすい授業や研修生活を支えて下さいました中国四国酪農大学校の皆様、快く研修を受入れていただきました蒜山の農家の皆様に心より感謝申し上げます。

5. M.S 甘木朝倉酪農ヘルパー利用組合

今回の研修で乳牛のことを少しはわかった気がするが、まだまだ分からないことがあるので勉強して、もっと牛のことを知りたいという気持ちになった。

農家研修でも、初心者自分を気持ちよく受け入れてもらい、いろいろ教えてもらい、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

また、酪農大学校の先生、生徒さん達にもとても良くしてもらって有難かったです。特に長網先生には最初から良くしてもらい、途中、自分達が疲れているのを感じたられたのか楽しく接してもらい、良くしてもらいました。ありがとうございます。

今回、研修で学んだことを福岡での現場でも活かしていきます。

6. O.M 宮崎県西諸県地域酪農ヘルパー組合

研修にて、講義、演習、実習とあり、特に演習・実習は良かったと思います。演習ではロープの結び方、端止め等を学び、実習では酪農家さんの所に入って飼槽掃除から餌やり、搾乳と農家さんがやっていることを一緒にやって、搾乳では悪い点を指摘してもらい、要領を教えてもらったことに感謝しています。

今後の酪農ヘルパーとして少しでも知識等が身に付いたと思います。これから先も経験を重ね、地域を支えるヘルパーとして頑張っていきたいと思います。

7. T.S 洲本市酪農ヘルパー利用組合

蒜山の酪農家さんに実習に入らせてもらい、その広さに圧倒されました。機械もたくさん大きいのがあって、北海道並みに感じました。農家さんはとても親切で、分かりやすく教えてもらい、特にミルカーの付け方は実習でも、講義の方でも勉強になり、改めて、これからはミルカーの付け方に気をつけたいと思いました。

講義では、知らないこともたくさんあり、帰ってから更に勉強する必要性を感じた。トラクター作業は苦手が一番下手で恥ずかしかったけど、私の農家さんのところは乗らなくていいので、乗る機会はめったにないので、今回は乗れて勉強になりました。

研修全体では、色々な県の人が集まり、農家さんとも話が出来て、勉強になりました。私は、人見知り激しく、コミュニケーション不足で、人とうまく話せないのですが、これからは、農家さんにはもっと自分から色々なことを質問しないといけないと反省しました。地元に戻ったら農家さんと積極的に話をする必要性を感じました。

8. H.R 東播酪農協同組合

私は、高校・大学で畜産学を学び、3年弱の牧場勤務の後、地元の酪農ヘルパーとなりました。そのために研修に行っても知っている事ばかりだろうと回りから言われていました。そんな中で

始まった初任者研修ですが、回りの大方の見方は外れ、講義の内容、農家実習ともに大変興味深いものでした。

講義内容については、どれも一度は聞いたことのある話だったと思います。しかし、その内容を文字で読むのと実際に作業をしてから学ぶのでは、理解度が全く違います。また、今一度、一つ一つの作業が持つ意味を確認することで、全作業をもう一度見つめ直し、普段、ヘルパーとして農家さんの「作業」をするという認識から「仕事をする」という認識に変われると思います。作業に知識、考えを上乗せすることが出来ます。

また、農家実習では牛の生理を考えている酪農家に行くことが出来、非常に良い刺激をもらいました。私はいつか自分で牧場をやりたいと思っています。どうやって牛を飼い、酪農経営をやっているかに非常に興味があります。そうした中で牛の生理作用を理解した上で、ポリシーを持って科学的な観点をより変化し続けながら、最良の飼養管理を搜している畜主さん達との話は面白いものでした・そしてやはり、しっかり考えて牛を飼っていればしっかりと牛は応えてくれ、それが利益となって返ってくることが再確認出来ました。自分の知識、技術を更に上のレベルへもっていきたいと思うモチベーションの向上につながりました。

更に、全国各地でヘルパーとして働いている方々と情報交換をすることで、他の地域でも自分と同じようにヘルパーとして知識・技術の向上を図っている仲間がいるんだ、ということを認識出来ました。ヘルパーとしてレベルアップしていくためには一人でやるよりも他人と刺激し合いながらやる方が圧倒的に速く確実です。これは先輩ヘルパーでは難しいことです。やはり経験の差から先輩と差があってもしょうがないか、と思うからです。今後、会うことはほぼないと思いますが、ここで刺激しあったヘルパーが各地で活躍するようになればこんなに楽しいことはないです。

今回、この研修に参加したことで、普段の仕事ではない刺激を多くもらえたことに感謝したいと思います。

8 平成24年度酪農ヘルパー養成研修（初任者研修）

場 所 財北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）

期 間 平成25年2月18日～2月22日

参加人員 12名

〈平成24年度酪農ヘルパー初任者養成研修カリキュラム〉

期 間：平成25年2月18日（月）～2月22日（金）

場 所：JAカレッジ

区分	2月18日（月）	2月19日（火）	2月20日（水）	2月21日（木）	2月22日（金）
午前の部	集合・受付 (12:00)	9:00～10:30 「酪農情勢」 酪農学園大学 農業経済学科 教授 荒木 和秋	9:00～10:30 「酪農機械の取り 扱いと整備」 酪農学園大学 酪農学科 教授 高橋 圭二	9:00～10:30 「乳牛の疾病 予防と対策」 酪農学園大学 獣医学科 教授 及川 伸	9:00～10:50 「社会人としての 役割と行動」 小山田 慶次
		10:40～12:00 「酪農経営」 酪農学園大学 農業経済学科 教授 荒木 和秋	10:40～12:00 「糞尿処理の基本」 酪農学園大学 酪農学科 教授 高橋 圭二	10:40～12:00 「乳牛の改良と 牛群検定」 酪農学園大学 酪農学科 教授 寺脇 良悟	11:00～12:00 理解度チェック・ アンケート 閉講式 修了証書・認定書授与
昼食	○	○	○	○	×
午後の部	13:00～13:15 開講式 13:20～15:50 「コミュニケーション の重要性」 (有)石田コンサルタント オフィス 石田 邦雄	13:00～14:50 「牛乳生産と 食品衛生法」 酪農学園大学 食品科学学科 講師 板原 孝志	13:00～14:50 「乳牛の繁殖管理」 酪農学園大学 酪農学科 教授 小山 久一	13:00～14:50 「乳牛の栄養と 飼料給与」 酪農学園大学 附属農場 教授 野 英二	
	16:00～17:00 「酪農ヘルパー事業 の概要」 酪農ヘルパー全国協会 沼崎 武	15:00～17:00 「乳牛のモニタリング」 酪農学園大学 酪農学科 教授 扇 勉	15:00～17:00 「乳房の構造と 泌乳生理」 酪農学園大学 附属農場 准教授 泉 賢一	15:00～17:00 「インテリジェント 牛舎見学」 酪農学園大学 附属農場 教授 野 英二	
その他	18:00～ 意見交換会				

一般財団法人北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）



JAカレッジ研修施設玄関



研修室

平成24年度酪農ヘルパー養成研修（初任者研修）

場 所 財北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）

期 間 平成25年2月18日～2月22日

参加人員 12名

感想文

1. H.D デーリィサポートかごしま

一人で鹿児島から来たので、最初はとても緊張していたのですが、皆さん温かく優しい人ばかりだったので、とてもうれしかったです。

また、初めて北海道に来て、雪の量に大変驚きました。また、とても寒かったです。

授業では酪農は奥が深いんだと思いました。それと最初の「コミュニケーションの重要性」ではとても面白かったです。受講出来てとても良かったです。今後、学んだことを活かしていきたいです。

「乳房の構造と泌乳生理」では大変役に立つ事をたくさん学べたと思います。前搾りは改めて大事だと思いました。また、疾病は治すことも大事ですが、かからないようにすることがもっと大事だと思いました。その他、酪農ヘルパーとしてのことだけでなく、酪農家さんの考え方を学ぶことが出来て良かったです。

受講させていただきありがとうございます。

2. S.Y 更別町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回の初任者研修で学んだことはたくさんありましたが、一番印象に残っているのは「酪農経営」と「乳牛の飼養管理」、「繁殖」です。

私は将来、実家の酪農を継ごうと思っているので、そのためにもとても良い勉強になりました。もちろんヘルパーをやる上でも、とてもためになる研修になりました。

特にコミュニケーションの講義は、ヘルパーをやっていく上で、農家さんとのコミュニケーション、ヘルパー仲間とのコミュニケーションも大切なので、これからに活かせる勉強になりました。

今回の研修では、ヘルパーをやっていく上だけでなく、これからの人生にもつながる勉強が出来て本当によかったです。今回の学びを自分のスキルアップにつなげていきます。ありがとうございました。

3. K.G 湧別町酪農ヘルパー利用組合

今回、僕はこの初任者研修を受講して色々勉強になったことが多いです。ヘルパーには関係のない話もあったけど、やっぱり一番は「乳房の構造と泌乳生理」の泉先生の講義でした。ヘルパーにとって一番身近だし、絶対にやらなきゃいけない仕事だから、すごく勉強になりました。他に勉強になった事は色々な地区のヘルパーの仕事や勤務時間のこと、地域によるやり方の違い等も勉強になりました。

湧別は、ほとんどの農家がつなぎなので、フリーストールの話とかものすごい興味を持ちました。もっと泉先生の話聞いてみたいと思いました。

この研修もすごく楽しくて、参加者もいい人ばかりで有意義な研修となりました。

4. S.S 富良野酪農ヘルパー利用組合

まずは、この研修を受けて、酪農の情勢は自分が思っているよりも悪いということを改めて知らされた。酪農大学の教授などに図や数時等でわかりやすく教えられると、酪農って、この先、どうなるのかと不安になりました。また、他の地域から来た人達の話の聞くと、皆、自分と同じようなことで不安や不満があることがわかり、少し安心しました。

後は、この研修で教わった事をしっかり自分の中で理解し、消化して、農家とトラブルにならない程度に協力して頑張って、農家さんの役に立つようこれからも頑張っていこうと思います。

最後にこの研修を開いてくれた方々、講師の方々、費用を出してくれたヘルパー組合に感謝します。

5. S.K (有)ファム・エイ

私は、最初に初任者研修があることを聞いて、酪農機械のことや牛体の管理のこと等について学べたらと思い、受講させていただきました。

研修当日に教室に入った時は、年齢もバラバラで色々な所から人が来ているんだなと思いました。自分は副班長ということでしっかり出来るか不安でした。「コミュニケーションの重要性」ということで他の受講者のことを聞き、経験が多い人、少ない人等色々な人が受講していると思いました。

酪農機械については、まだ使ったことのないキャリロボのことやミキサーのことについて使い方や注意点を知り、とても参考になりました。

小山教授の講義では、卵巣等の実物を見て、触ったりと、普段出来ない体験が出来てとても充実した研修でした。今回の研修で学んだことを是非、仕事に活かしたいと思います。

6. M.T 酪農ヘルパー組合はまなす

酪農ヘルパーの仕事に就いて2か月が経ちました。専門的な知識もないまま出来るのか不安な毎日です。

ヘルパーになって最初に戸惑ったのが搾乳です。各農家さんで、機械も違えばディッピングの仕方も違う、乳房の拭き方も違う、そして一番難しいと思ったのは、各牛の乳の残り具合でした。経験を積んで覚えていくしかないと思っていましたが、今回の研修で乳房の仕組みや乳の搾り方を科学的に勉強する事が出来、少しだけでも搾乳が分かった気がしました。

そして、最後に牛乳が食品だということを忘れずに、常に仕事に取り組んでいきたいと思いました。

7. I.T (有)中札内村酪農ヘルパー利用組合

この度、研修を受講してまず感じたことは、皆さんそれぞれ仕事や人間関係等で悩みを抱えていることです。自分も経験が少ないのと人と付き合うのが苦手で悩んでいたのも、皆さんという話が出来て本当に良かったです。

講義全体をみて、一つ残念だったことがあります。それは泉教授の講義が短く感じたことです。今の私達（初心者）には、酪農情勢や経営学の話を読んでも全く理解出来ないし、理解出来るほど気持ちに余裕もないと思います。

そんな中、泉教授の講義は大変分かりやすく、現場でもすぐに役立つことが出来る内容だったので、聞いていて本当に楽しかったです。決して他の教授の講義がつまらないのではなく、分からない点が多々あっただけです。是非、今後、カリキュラムを組む際、「初心者」の方が理解出来る講義を組んでいただきたいです。

8. K.M ふらの農協南部酪農ヘルパー利用組合

搾乳経験は五年程あるものの、酪農ヘルパーとなり、まだ3ヶ月。組合員の農家さんの営農に貢献し切れていない自分に、ジレンマを日々感じている今日この頃に、このような研修会に参加出来て、大変有意義で光栄なことと思っています。

毎日、酪農学園大学の優秀な教授陣に最新の酪農について講義を受け、立派なJAカレッジで美味しい食事を十分にいただき、同じ思いを抱いているヘルパー仲間に出会って、日々の苦労話等をして意見交換をし、自らのジレンマを少し解消出来たかな、と思っています。ここで学んだことを今後の業務に活かし、比べず、あせらず、あきらめず、農家さんの営農に貢献出来るよう努力します。

最後になりますが、お世話をして下さった協会の先生方にも感謝いたします。

9. N.R 中川町酪農ヘルパー利用組合

今回このヘルパー研修に参加して、すごく自分のためになることをたくさん学べたと思います。

搾乳のことは、今まで教えられてきてやったことは科学的には間違っていたと思って、もし、これから自分でやる時には今回の話はとても「ため」になると思いました。ボディコンディションとかは前から興味があったからとても面白かったです。

他の講義もとても「ため」になることがたくさんあって、今回受講して良かったと思いました。

今回、受講した人達から、他の地域のヘルパーのことを聞けてとてもいい刺激になりました。今回の研修は得るものが多く、今後の自分のために役立つと思います。

10. K.Y (有)ファム・エイ

酪農ヘルパー初任者研修を受けて思ったことは、今まで酪農ヘルパーとして作業していたが、まったく知らないことが多い、ということです。正直、除糞、エサやり、搾乳をやれば良いと思いながら作業をしていました。

将来、酪農をするということも無いし、ヘルパーだから農家さんの手伝いぐらいにしか思っていませんでした。

でも、講義の中で、何て自分の考えは浅はかだったのか、と思い知らされました。講義はもちろん、今回の初任者研修を受講されている方々の話を聞いても、色々な作業のやり方や考え方があって、関心を持ちました。これからはもっともっと自分のスキルを上げ、それを実践しつつ、考えを共有して向上の手助けが出来れば良いと思いました。

11. K.K 網走市酪農ヘルパー利用組合

このヘルパー研修を受講して私が感じたことは、皆さん、働く場所、環境に違いはあっても同じ様な悩みや問題を抱えているのがわかって、色々意見を聞くことが出来て、よかったと思います。

ここで学習したことや皆さんの意見を参考にして、これまで働いていた農場のやり方でついた癖やわからなかったところを見直して、色々な酪農家さんのところでもきちんと仕事の出来るヘルパーとして働けるようにしたいです。そして何年後になるかわかりませんが、実家を継ぎたい、と私は思っています。

12. N.O 酪農ヘルパー組合はまなす

今回、この研修を受講して感じたことは、体系的に酪農というものを教えようとしていると感じました。現場でも使える事も多数あり、良い研修だったと思います。ただ、実技が無かったのは少し残念だったような気がします。明日（2/21）、牛舎見学があるようですが、実技は無いようです。

自分はヘルパーになって今日で丁度2ヶ月です。自分にとって処置室の作業（ミルクカー、バルククーラーの洗浄等）、農機具の運転等をやらせてもらっていません。教えてはもらっていますが身につけていなく、運転の方に関しては、大特の免許は持っていません。このような現場でやる作業のことを体系的、構造的に実技を教えてもらいたかったと思います。自分達は現場で働く人間なのでそこをよろしくお願いします。

今回、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。全道、全国各地から来たヘルパーの人達に会え、いろいろ意見交換が出来たことは大変貴重な体験になりました。

今後は、今回受講したことを思い出し、ヘルパー作業に活かしていきたいと思います。

9 平成24年度酪農ヘルパー養成研修（中級者研修）

場 所 (財)北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）

期 間 平成25年1月28日～2月2日

参加人員 13名

〈平成24年度酪農ヘルパー中級者養成研修カリキュラム〉

期 間：平成25年1月28日（月）～2月1日（金）

場 所：JAカレッジ

区分	1月28日（月）	1月29日（火）	1月30日（水）	1月31日（木）	2月1日（金）
前の部	集合・受付（12：00）	9：00～10：30 「酪農情勢」 農業経済学科 教授 荒木 和秋	9：00～12：00 「中堅職員に 求められるリーダー」 (有)石田コンサルタント オフィス 石田 邦雄	9：00～10：30 「乳牛の疾病 予防と対策」 獣医学科 教授 及川 伸	9：00～11：00 「乳牛の繁殖管理」 酪農学科 教授 小山 久一
		10：30～12：00 「酪農経営」 農業経済学科 教授 吉野 宣彦		10：30～12：00 「乳牛の改良と 牛群検定」 短期大学部 教授 寺脇 良悟	11：00～12：00 アンケート・感想文 閉講式 修了証書授与
昼食	○	○	○	○	×
後の部	13：00～13：15 閉講式	13：00～15：00 「乳牛の栄養と 飼料給与」 付属農場 教授 野 英二	13：00～17：00 「中堅職員に 求められるリーダー」 (有)石田コンサルタント オフィス 石田 邦雄	13：00～15：00 「牛乳生産と 食品衛生法」 食品科学学科 講師 栃原 孝志	
	13：20～15：00 「社会人としての 役割と行動について」 小山田 慶次			15：00～17：00 「乳房の構造と 泌乳生理」 付属農場 准教授 泉 賢一	
	15：10～17：00 「酪農ヘルパー 事業の概要」 酪農ヘルパー全国協会	15：00～17：00 「インテリジェント 牛舎見学」 附属農場 技師 川岸 孝博			
その他	意見交換会				



セミナーでの各自意見開陳風景



理解度チェック



セミナー会場案内



ベテランヘルパーの中級セミナー

平成24年度酪農ヘルパー養成研修（中級者研修）

場 所 財北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）

期 間 平成25年1月28日～2月2日

参加人員 13名

感想文

1. Y.S (有)浜中町酪農ヘルパー利用組合

今回、酪農ヘルパー中級者養成研修に参加して、酪農情勢や酪農経営の勉強や、インテリジェンス牛舎の見学、中堅職員に求められるリーダーシップとコミュニケーションの話等を講義していただきました。

情勢の話の中で、TPP問題等で日本が参加したら酪農の経営自体が危ないと聞き、自分達の仕事も無くなってしまうのではないかと心配になってしまいました。

コミュニケーションの話では、自分も2回ほど講義を受けており大事さはわかっていたつもりでしたが、まだまだ甘かったとわかりました。自分の話す態度で相手を不愉快にさせてしまうことや身だしなみ等でも不愉快にさせてしまうことがわかりました。今後は、自分のことだけを考えずに部下のことをよく見て、よく話を聞いて、良いことは誉め、ダメなことはきっちりと叱り、信頼関係をしっかり持って仕事に取り組みたいと思いました。

リーダーとして、先輩として部下達に頼られる、誇れる人間になりたいです。
今回の研修に参加出来て大変良かったです。

2. I.Y 中頓別町酪農ヘルパー利用組合

人見知りの私は、最初、同じ受講者と馴染めるか不安でした。でも、酪農ヘルパーという同じ職業をしていることもあって、共通の話題が人見知り感を吹き飛ばしてくれました。

普段、体を動かしていることの方が多く、毎日椅子に座っての授業で体の鈍りを感じることもありました。でも、授業内容は興味深く、特に「酪農ヘルパーはサービス業」というコミュニケーションの授業を受けて、日々農家さんとの人間関係に苦しさを感じていた自分にとっては、とてもよい学びとなりました。

各地の酪農ヘルパーの方と話し、生活を共にして、今までの自分だけの考え方より更に視野を広げることが出来たのがとても良かったです。

皆さん、一週間本当にありがとうございました。

3. M.T 更別酪農ヘルパー有限責任事業組合

私が酪農ヘルパー中級者研修に参加して感じたことは、色々な組合の方々と色々な話を出来る素晴らしい場、だということです。

それぞれの酪農家さんの話や仕事の話、それはとても他人事とは思えない深刻な話や面白い話ばかりでした。

今回、この研修を受けて本当に良かったと思います。年齢はバラバラでしたが、皆、仲が良く、とても和やかな雰囲気でした。勉強になったことも特に勉強にならなかったことも含め、とても良い研修になったと思います。

4. Y.H ようてい酪農ヘルパー利用組合

今回、5日間の研修の中で様々な事を学ばせていただきました。

まず、講義の中で、日々の業務で何となくやっていたものに根拠付けをすることが出来ました。

牛は正常なエサをきちんとした分量を食べていれば病気になることはない。

ポストディッピングは、乳房炎を防ぐ意味で最も費用対効果が高く、どぶ付けで根元まで付けることが重要。乳頭の細菌を殺すためにはポストもしくは殺菌剤で拭くことが重要。牛に優しくする＝牛にストレスをかけないことで、乳量が増える（牛のストレスは色々と考えられるが、特に大きな音、声が嫌）。他にもたくさんありますが、本当に有意義な講義でした。

また、他のヘルパーとの交流でも様々な情報をいただきました。どのヘルパーが作業を行っても均一なサービスを提供出来るように、新人やクレームのある職員に対して技術指導を行なう。定期的な情報提供の場を設ける。ヘルパー内での不満、要望があれば、会議またはその他のルートを通して改善するシステムを整える。等々、日々実践されている良い事案は大変勉強になりました。

他のヘルパーとの交流で、似たような悩みを共有することで、自分も頑張ろうという気持ちを高めることが出来ました。

最後に、中級者研修は助成金が無いと聞きました。こんな自分を研修に参加させていただいた組合の方々には大変感謝しています。お礼を言いたいとともに、今回学んだことを糧により上質なサービスを提供出来るヘルパー組合にしていきたいと思っています。

5. O.M JA中春別酪農ヘルパー利用組合

今回、中級者研修が5日間の日程で行われ、酪農業を取り巻く情勢に始まり、乳牛の改良や繁殖等様々なカリキュラムを学ぶことが出来ました。

また、インテリジェンス牛舎の視察では、清潔でよく管理された哺育舎やフリーストールパーラーを見ることが出来、大変勉強になりました。

様々な内容の講義の中には、知識として既に知っている事柄もありましたが、改めて復習する意味でもよい機会となりました。

中でも興味深かったのは、乳牛の疾病予防と泌乳生理に関する講義で、度々提示された「牛になるべくストレスを与えない」という当たり前のことです。実際に、仕事の現場ではスムーズな作業の流れや時間を気にするあまり、牛への対応がぞんざいになりがちでした。今後は、もう一度基本に立ち返り、牛が穏やかな気持ちでいられるようにヘルパー業務につきたいと思います。

そして、今回、何よりも様々な地域で頑張っている同業の仲間達と意見交換が出来、リフレッシュした気分になりました。それぞれが抱える悩みや仕事に対する姿勢、普段思っている事等、働いている場所は違うけれど、結局同じ酪農ヘルパー、似たり寄ったりなのだなあ、と実感しています。

例えば、50年後、今回顔を合わせたメンバーが再開した時、皆どう変わっているのだろうか、それとも今と同じままなのか、と想像するのが楽しいぐらい良い出会いとなりました。このような養成研修が次回開催されたら、是非参加したいと思います。

6. K.M 厚岸町酪農ヘルパー利用組合

私はこの中級者研修を受けるのは二度目です。中には同じ内容の講義もありました。ためになるものもあれば、ヘルパーにはあまり必要のないかも知れないものも正直あったのではないかと思います。

今回の研修での最大の収穫は、ディッピングには自分が考えていた以上に効果があり、経済効果も高いという事実を知りました。私は、新規就農を考えていますが、ディッピングはやらないうちはやっておいた方がましであるとおまじない程度にしか考えていませんでした。また、牛はストレスにより残乳量が増えてしまうこと、その残乳が経営にとっても大きな影響があること等、改めて認識することが出来ました。

新規就農が実現した時にはこの研修の内容を思い出し、いい経営が出来たら幸せです。

7. T.K 浜中町酪農ヘルパー利用組合

今回、酪農ヘルパー中級者研修に参加し、今後のヘルパー業務でリーダーとしての「ためになる話」を聞くことが出来ました。

自分で特に聞いておきたかったのが新人ヘルパーの育成について、でした。参考になったのはコミュニケーションで、今までは自分の思い通りにいかないと「イラッ」とくることが正直ありました。しかし、相手の悪いところばかり見るのではなく、良いところを見て、そこを引き出しから、更に良いところを広げていくことが大事だと痛感しました。

他にも多くの酪農分野の研修を受け、知識を深めることが出来ましたので、これから入ってくる新人ヘルパーへ伝達していければ、それが新人育成にもつながると思います。

この研修会で全道、千葉から同じヘルパーのリーダーと交流や情報交換が出来、楽しく有意義な時間でした。ありがとうございました。

8. H.T 長生地域酪農ヘルパー利用組合

今回、中級者研修に来て、北海道のヘルパーは千葉のヘルパーとどう違うのか、どこが一緒なのかがわかって大変勉強になりました。

授業では、石田邦雄先生と楽賢一先生の講義を受け、帰ってから実行したいことをたくさん学べてよかったです。

特にコミュニケーションの授業では、今、僕が抱えている悩みについて、色々教えてもらえたので、実行に移したいと思いました。すぐには変わらないかも知れませんが頑張って変えていこうと思います。

中級者研修に来て、北海道のヘルパーとも仲良くなれたし、勉強にもなって、楽しく過ごせました。

9. S.S 士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合

今回、中級者研修を実施していただきありがとうございました。一緒に受講した他の組合のヘルパーとも楽しく過ごすことが出来ました。

今回の研修では、中堅職員に必要なリーダーとしてのコミュニケーションや知識を学ぶことが出来ました。周りの方たちが年上や経験の多い方が多く、意見交換の場としても有意義な時間でした。

研修に来る前の悩みであった職員の早い離職についての解決策の糸口と自信がついたように思えます。帰ってすぐに実践したいと思います。

ありがとうございました。

10. Y.A (有)浜中町酪農ヘルパー利用組合

今回の研修では、日常業務の中では得られない知識を得ることが出来、ヘルパーとしていかに勤めるかを見直す良い機会になったと思う。

特に石田氏によるコミュニケーションの講義では、仕事に限らず日常の人間関係を円滑にするための要点を学ぶことが出来、大変参考になった。出来ることならば、一年に一回位のペースでこうしたコミュニケーションやマナー等の講義を受けたい。職場内でコミュニケーションやマナーの意識が高まれば、職場全体の仕事の質が向上すると思う。

また、ともに参加した他の組合のヘルパーと意見を語り合うことが出来たのも貴重な体験だった。研修で学んだことを職場に戻ってから実践し、中堅ヘルパーとして後輩を指導、育成するのに活かしたい。

11. N.K 標茶営農サポートセンター

この度、4泊5日の研修を受講して、色々な事を学びました。社会人のマナーから始まり、酪農情勢や牛の飼料、疾病、改良、繁殖等の飼養管理や酪農ヘルパーをやっていく上でのコミュニケーション作りやリーダーシップの取り方等、多岐にわたり大変勉強になりました。

また、今回、共に研修に参加した仲間達との交流により、皆さんそれぞれのやり方や悩み等、自分と重なる部分も多々あり、大変意義のある研修を受けさせていただいたと感謝しております。

今後、自分の地域に戻り、今回学んだことを力にして成果を出せば良いなと思いました。

12. O.S JA幌延町

今回、研修に参加して私はとても良い条件に恵まれたと思いました。

まず、一つ目として、天気恵まれました。研修中はほとんど雪が降らず、そして温かったこと。二つ目は毎日健康的に、朝昼夜しっかりご飯を食べ、お風呂にゆったり浸かり、睡眠もしっかりとれて二日酔いにならずに過ごせたこと。そして三つ目は道内外の様々なヘルパー組合から派遣されてきたヘルパーの人々です。

各組合の話を聞いていると、幌延は大変だなと思っていたことが、他の組合も同じで、大変な思いをしてきたんだなと思いました。そして他の人達はとても熱心に研修に参加していたので、自分も頑張ろうと刺激を受けました。

今回、参加した人達は平均年齢が高いためかとても落ち着いて研修を受けて、時間も守り、深酒をせず、皆うまくかみ合っている時間を過ごせたと思います。

今回の研修は、私にとって、とても勉強になり、他のヘルパー仲間達の存在がとても大きく感じ、幌延に帰ったら自分も負けずに頑張ろうと思います。また、どこかで会うことがあれば酒を酌み交わしながらヘルパー話をしたいと思います。

13. K.N 湧別町酪農ヘルパー利用組合

この中級者研修を受けて、ヘルパーと農家は互いに勉強と理解をしなければいけないと思いました。日々変わる農業の世界では昔のやり方のままではいけないし、それをわかろうとしなければ絶対いけないと思います。

我々ヘルパーが少しでもわかっていれば、聞かれたら答えられるし、お互いにコミュニケーションがとれて、信頼関係が生まれて、ヘルパーはいい仕事環境、酪農家さんはより良い仕事環境と生産が出来ると感じました。

今回の研修を活かして、後輩と先輩ともっとコミュニケーションをとり、意見を出し合ってミス無くし、酪農家の信頼と安心を得られるよう、皆で協力して頑張っていきたいです。

一般財団法人北海道農業協同組合学校（JAカレッジ）



JAカレッジ研修施設玄関



研修会場

10 24年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修

場 所 一般財団法人蔵王酪農センター
期 間 平成24年11月12日～23日

〈酪農ヘルパー養成研修日程表〉

		実技 5:30～7:30	朝食	講義 9:00～12:00	昼食	講義 13:00～15:00	実技 15:30～18:00	夕食
1	月					開講式、酪農ヘルパー事業概況 (ヘルパー協会)	施設見学	
2	火	搾乳、飼養管理		衛生管理① (小笠原獣医)		正しい搾乳器具の 取扱い (オリオン 池田)	☆ヘルパー同行	
3	水	☆ヘルパー同行		衛生管理② (小笠原獣医)		放牧、経営管理 (農業改良普及センター)	搾乳、飼養管理	
4	木	搾乳、肥育管理		泌乳と搾乳 (センター)		酪農機械の取り扱い (ニューホランド 川井)	☆ヘルパー同行	
5	金	☆ヘルパー同行		粗飼料の生産と貯蔵 (宮城大学 小林)		ふん尿の処理・育 種改良 (宮城大学 小林)	☆ヘルパー同行	
6	土	☆ヘルパー同行		コミュニケーション能力 UPセミナー (エデュウス 藤田)		東北の酪農の現況 (センター)	搾乳、飼養管理	
7	日			自主研修		自主研修		
8	月	搾乳、飼養管理		繁殖技術 (小笠原獣医)		飼育環境とその制 御 (押野牧場 押野)	☆ヘルパー同行	
9	火	☆ヘルパー同行		牛舎環境について (センター)		栄養と飼料給与 (家畜保健衛生所)	☆ヘルパー同行	
10	水	☆ヘルパー同行		乳牛の特性 (センター)		乳牛舎と付属施設 (押野牧場 押野)	☆ヘルパー同行	
11	木	☆ヘルパー同行		牧場関連施設見学 (センター)		理解度チェック	搾乳、飼養管理	
12	金	搾乳、飼養管理		酪農ヘルパー業務 と責務 (地元ヘルパー)		閉講式		

感 想 文

1. S.T 胆江地区酪農ヘルパー利用組合

今回の研修では色々な事を学べたと感じている。

私は今回の研修で技術を向上させることを目的としていた。蔵王酪農センター付属の牧場での作業やヘルパー同行等でその目的も少しだが達成出来たと感じている。

日中の講義では、多くの酪農に関する情報を知ることが出来た。その中で、印象に残っているのが、エサへの食品残さの利用についての話である。蔵王酪農センター等ではTMRを利用して、その中に茶がらが含まれているという話だった。その茶がらには麦等も含まれているため養分含量が高く、牛も好んで食べる。しかし、茶がらに含まれる水分が多いため、TMRに入れる前に水分調整をして発酵させなければならないという手間がかかることも聞いた。

また、エサへの利用ではないが、コーヒー粕を敷料として利用していたのにも驚いた。利点として、コーヒー粕の中の油分等により臭いが抑制出来ると聞いた。

他にも繁殖技術のことや分娩の補助で気を付けないといけないことなどヘルパーとして必要になってくるであろう知識を学ぶことが出来た。

今回の研修で学んだことを活かし、農家から多くの信頼を得られるようなヘルパーを目指していきたいと思う。

2. T.M 信州諏訪農協酪農ヘルパー利用組合

今回の研修の心構えとして、正直どのようなスタンスで臨めばいいのか図りかねていた。もっと言えば、最新の理論や搾乳技術を修得することについて何の意味があるのか理解出来ずにいた。

何故ならば、仮にそれらを修得して長野へ戻ったとしても、それを活用する場は皆無であると確信していたからだ。それは、各畜主の方々の考え方や哲学が余りにも多様化し、更に固定化している現実を目の当たりにしてきたからに他ならない。

どんなに権威ある学者が唱える最新理論や地元の獣医師が呼びかける搾乳方法があったとしても、彼らが経験と独学で積み重ねてきたやり方を変えることはまずあり得ない。

そこへ、一酪農ヘルパーに過ぎない我々がそれら最新理論を修得することに何の意味があるのであろうかと、疑問を禁じ得なかったのだ。我々は各畜主の意向を的確に察し、実直に真似ることに意味があり、それ以上は分を超えるものと理解していた。

しかし、研修を終えた今、2週間の尊い経験が明らかに私の貴重な糧になったと実感している。普段の閉鎖的な環境から抜け出し、様々な交流を図る中で、本当に貴重な経験と情報を得ることが出来た。中にはカルチャーショックと呼べるものも少なくなかった。以後、同じ真似をするにしても、畜主の意向を更に的確に深く理解出来る土台となるに違いない。

今、私は充実感と晴れ晴れとした気持ちで一杯であるが、本当の実践はこれからである。研修を終えたとはいえ、また酪農の触りをほんの少し知ったに過ぎない。これからの作業では、研修で得た知識や技術をひけらかすのではなく、謙虚な姿勢の中で、考察、発展させ、私なりの哲学を作り上げ、日々の仕事に活かしていきたいと思う。また、数年後、更なるステップアップが図れるよう、中級者研修に参加出来たら幸いである。

今日、日本の農業を取り巻く環境は、TPPを始め前途が多難であることは容易に想像がつく。今後、様々な選択を迫られるであろう時に、一人の農人として、しっかりと意思を貫けるよう、日々の経験と知識を大切に、如何なる事態にも対処し得る柔軟性を身に付けていきたいと思う。

最後に、未熟な私を成長させてくれた諸先生方やお世話になった関係者の皆さんに心から感謝し、更なる発展を遂げるべく精進していくことを誓い、結びたいと思う。

3. K.S 東北信酪農ヘルパー利用組合

正直、私は最初、組合の事務所からこの研修の参加を命じられた時、「行きたくないなあ」、「二週間なんて長過ぎる」、「蔵王ってどんな所だろう」と不安で一杯でした。

しかし、今になって研修を振り返ると、二週間はあっという間であり、現場での作業、机上での講義と、とても有意義な研修期間を送ることが出来た。

また、参加者の他の二人ともとても親睦を深めることが出来、お互いの職場での悩みや疑問、たくさんの意見を交わすことが出来、これからは酪農ヘルパーとして頑張ろうという熱意が湧きました。

また、私は、最近この酪農ヘルパーの存在意義がよくわからなくなっていました。別に自分達が居なくなっても、農家さん達はなんともないんじゃないか、どうして高いお金を払ってまで組合に入り、ヘルパーを頼むのだろうか、自分は一体何のために働いているのだろうか、こんなことばかり考えていました。

しかし、この研修に参加し、このモヤモヤを晴らすことが出来ました。酪農ヘルパーは農家さんにとって、なくてはならない存在である。自分達酪農ヘルパーがいなかったら、農家さんの緊急時、周りからの支援を得るのは困難であり、牛を管理することが出来ず、大変なことになってしまう。また、酪農はとても重労働であり、搾乳に縛り付けられた生活を余儀なくされる。

しかし、自分達酪農ヘルパーが定期的にその牧場で農家さんの代わりに働くことによって、農家さんは休息することが出来、ゆとりを持った酪農経営が出来る。更に、酪農は休みが無いといった課題を自分達が解決することによって酪農家戸数の減少に歯止めをかけることも出来る。私は、この研修を通してそう確信した。

これからは、「自分が長野県、いや、日本の酪農を支えているんだ」という自覚と誇りを胸に、少しでも農家さん達の「酪農」を「楽農」に変えられるよう一生懸命、全力で働いていきたいとします。

(写真は25年度研修)



蔵王酪農センター搾乳牛舎



蔵王連峰を望む



蔵王酪農センター小原理事長挨拶



平間課長オリエンテーション



パーラー



搾乳作業開始